

年間授業計画（シラバス）

令和 5 年度（2023 年度）

第 3 学年

東京都立城東高等学校

教務部

単位数	2
教科書	筑摩書房 現代文B

1 講座のねらい

「現代文」の授業の目標は、「近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。」ことである。（学習指導要領）

具体的には「文章の内容、表現、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること」「文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと」「文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること」など。

他者を理解し、自己の考えや思いを伝え、頭の中を整理することは全て「ことば」を用いて行われる。

よりよく生きるためにも、「現代文」の学習を通して、「ことば」の習熟を高めながら、他者理解と自己理解、自己形成を共にしていきたい。

【評論学習のねらい】

- ・語彙力、論理的思考力を高めながら、文章を的確に読解する。
- ・批判的思考力を高める。
- ・様々な評論を読み、近代と現代の課題点を見つめ、未来を展望する。

【小説学習のねらい】

- ・様々な日本語（漢文調なども）を味わい、言語感覚を磨く。
- ・複眼的、多角的な読みをする力をつけ、小説の読みの多様性を知り、小説の鑑賞力を養う。また、人の心、人生についての考察を深め、生涯に渡り小説に親しむ。

2 授業の内容と進め方

「評論」「小説」などを読解し、共に鑑賞していく。

ペアワーク、グループワーク、発表活動にも、目を輝かせて積極的に取り組むこと。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

様々な文章の読解を通じて、論理的に思考する力や批判的思考力を育成していく。

生き方や将来について考える機会を多く持ち、ものごとを判断する力を養っていく。

協議、発表、作文、小論文などの言語活動を活発に行う。

読書活動を通じて、思考・判断・表現力を総合的に培っていく。

4 学習する上での留意点

・予習

事前に本文を読み、意味の分からない語句を辞書で調べ、予習問題があれば解けるところまで解いてくる。

・辞書、用語集

駆使する。身近においておくことが大切。紙媒体を推奨。

・受験生でも日々、読書をする

5 予習復習の実施

学習の基本。今年は「予習→授業→復習」の円環運動の水準を上げる。

6 副教材・参考書

新訂国語総合 (第一学習社)	国語学習全般に関わる資料集。卒業後も使用されたし。
頻出漢字マスター3000 (尚文出版)	漢字の意味も学習。3年間使用。
読解評論文キーワード (筑摩書房)	語彙力、評論の読解力向上。3年間使用。
大学入学共通テスト実践演習 論理・文学編 改訂版 (数研出版)	入試対策
「現代語訳 舞姫」 (ちくま文庫)	小説読解

7 課題・補習について

次の単元や授業についての課題や、読書課題などの課題あり。
長期休業中などに講習や補習がある。

8 評価の視点・考査について

定期考査、宿題テスト、小テスト得点と、学習意欲、提出物の提出状況により総合的に評価する。
学年末評定は、これらの評価を基に総合的に判定する。

9 1年後の目標

ものの見方、感じ方、考え方を広げ、深め、進んで読書することによって、国語が向上し、人生がより豊かになること。

よりよく読むことで、より深く感じ、より広い視野で物事を捉え、よりよく表現することができるようになること。

卒業後も生涯にわたり、読書を続け、学び続けて、人生を前向きに楽しんでいく。

「学び続ける人生は豊かである」

そして、その力を世のため人のために。

授業計画：現代文B

(2単位)

期	月	考查	単元	授業内容	着眼点
一学期	4 ～ 5月	第一学期 中間 考查	評論1 評論2	広告の形而上学 建築論ノート	・ 評論読解の基礎確認。 ・ 要旨をつかみ、新しい分野に関心をもつ。 ・ 筆者のものの見方や考え方を読み取り、自分の考えを深める。 ・ 論理的な文章の構成を理解し、文章の内容を叙述に即して的確に読み取る。
	5 ～ 7月	第一学期 期末 考查	小説1	舞 姫	・ 小説に親しみ、場面や心情の変化を表現に即して読み味わう。 ・ 筋の展開や主題を読み解く。 ・ 表現を鑑賞する
	8月	夏季休業			
二学期	7 ～ 10月	第二学期 中間 考查	評論4 評論5 総合問題	物語と歴史の間 ある〈共生〉の 経験から 入試問題演習	・ 論理的な文章の構成を理解し、筆者の考えをもとに自分の意見をもつ。 ・ 現代社会について考える。 ・ 論理的な文章の構成を理解し、筆者の考えをもとに自分の意見をもつ。 ・ 大学入試に向けて、問題演習とともに、これまでの学習の整理・補習を行う。
	10 ～ 12月	第二学期 期末 考查	小説2 総合問題	檸檬 入試問題演習	・ 小説読解、鑑賞 ・ 大学入試に向けて、問題演習とともに、これまでの学習の整理・補習を行う。
三学期	12 ～ 3月	学年末 考查	総合問題	入試問題演習	・ 過去問題の演習を行う。

現代文B（文系必修選択）（2単位）

単位数	2
教科書	筑摩書房 現代文B

1 講座のねらい

進路、また、興味関心に合わせ、より難解高度な文章の読解に挑戦します。また、記述式解答の作成方法を学びます。多様なテーマの文章に触れること、解答作成の練習をすることを目的とします。

2 授業の内容と進め方

明治以降の近代・現代の作品を学びます。演習問題を多く取り入れながら、さまざまな文章を読み解き、鑑賞していきます。

3 思考・判断・表現力を培う手立て

共通必修の項と同様です。

4 学習する上での留意点

共通必修の項と同様です。

5 予習復習の実施

共通必修の項と同様です。

6 副教材・参考書

共通必修の項に加え、「ロジック現代文 私大過去問題演習」（桐原書店）を使用します。

7 課題・補習について

共通必修の項と同様です。

8 評価の視点・考査について

共通必修の項と同様です。

9 1年後の目標

共通必修の項と同様です。

授業計画：現代文B 文系必修選択

期	月	考査	単元	教 材	授業内容と着眼点
一 学 期	4	第一 学期 中間 考査	評論 1 評論 2	ピジンという生き方 模倣と「なぞり」	・ 評論読解の基本確認。 ・ 要旨をつかみ、新しい分野に関心をもつ。 ・ 筆者のものの見方や考え方を読み取り、自分の考えを深める。 ・ 論理的な文章の構成を理解し、文章の内容を叙述に即して的確に読み取る。
	5				
	5	第一 学期 期末 考査	評論 3	絵画は紙幣に憧れる	・ 論理の展開に即して内容を正確に読み取り、自分の意見を持つ。 ・ 論理の展開を理解し、自分の意見と他者の意見を比較し、考察する。
	7		評論 4 評論 5	骨とまぼろし 技術の正体	・ 論理の展開に即して内容を正確に読み取り、自分の意見を持つ。 ・ 論理の展開を理解し、自分の意見と他者の意見を比較し、考察する。
	8		夏季休業		
二 学 期	7	第二 学期 中間 考査	総合問題	入試問題対策	・ 大学入試問題対策として、さまざまなジャンルの問題に取り組み、出題内容の知識の完成及び解答方法の対応を演習する。
	10				
期	10	第二 学期 期末 考査	総合問題	入試問題演習	・ 大学入試に向けて問題演習とともに、これまでの学習の整理・補習を行う。
	12				
三 学 期	12	学 年 末 考査	総合問題	入試問題演習	・ 過去問題の演習を行う。
	3				

古典B（文系 必修）（4単位）

単位数	4
教科書	第一学習社 改訂版 古典B

1 講座のねらい

古典Bの目標は、「古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。」と学習指導要領に明記されています。現代を充実して生きていくためには、古典として現代まで生き続け、文化の根幹をなしてきた作品に触れ、「故（ふる）きを温（たず）ねて新しきを知る」ことが不可欠です。3学年の授業は学年進行につれてはるかに広範囲になり、内容も難しくなりますが、基礎事項を着実に学ぶことで大学受験にも対応できる学力を身につけることができます。また、生涯に渡り古典に親しむ土台を形成することができます。

2 授業の内容と進め方

古文・漢文ともに本文を繰り返し音読することは、古典のリズムを感覚としてつかむ上で大変有効な方法です。授業でも重視しますが、家庭学習においてもぜひ実行してみてください。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

様々な文章の読解を通じて、論理的に思考する力やクリティカルシンキングなどの力を育成していきます。また、文章内容を理解する中で、生き方や将来について考える機会を多くもち、ものごとを判断する力を養っていきます。

4 学習する上での留意点

- ① 予習が大切（必須）
- ② 辞書を引く
- ③ ノートを自分流に取る
- ④ 折にふれ、図説に親しむ。

5 副教材・参考書

新版三訂 完全マスター古典文法 (第一学習社)	・古典学習の際、常に手元に置いて活用し、古典文法の習熟・完成を図る。3年間使用。
必携 新明説漢文 (尚文出版)	・漢文の基本を身につける。3年間使用。
新訂総合国語便覧 (第一学習社)	・国語学習全般に関わる資料集。授業から入試まで総合的に活用する。3年間使用。
読んで見て覚える重要古文単語315 三訂版 (桐原書店)	・古文の語彙を豊富にし、読解力向上のために使用。定期考査や小テストで活用する。2年間使用。
和歌の力がつくノート (尚文出版)	・和歌の知識の定着
大学入学共通テスト実践演習 古文・漢文編 改訂版 (数研出版)	・大学入学共通テスト対策
古典文法 識別の力 解釈へのベストトレーニング (尚文出版)	・文法の強化

7 課題・補習について

夏期講習を行います

8 評価の視点・考査について

基本的には、年4回の定期考査、宿題テスト、小テストなどによって評価します。これが評価の中心となりますが、日頃の授業態度・学習意欲、提出物の提出状況なども加味します。

学年末評定は、これらの評価を基に総合的に判定します。

9 1年後の目標

大学入試に対応できるための読解力・知識を身につけ、解答作成力を向上させることが目標です。

授業計画：古典B【古文】

期	月	考査	単元	教 材	授業内容と着眼点
一 学 期	4 月	第一 学期 中間 考査	評論	俊頼髓脳 歌のよしあし 玉勝間 兼好法師が詞のあげつ らひ	・作者の主張している内容を理解する。 ・作者の兼好法師に対する批判の内容を理解する。
	5 月		日記 2	蜻蛉日記 泔坏の水 紫式部日記 日本紀の御局 他 和泉式部日記 夢よりもはかなき世の 中を	・本文中の和歌の内容を理解し、作者の心情を理解する。 ・登場人物の心情を、表現に即して考える。
	5 月 7 月	第一 学期 期末 考査	物語 3	とりかへばや物語 父大納言の苦悩 他 しのびね物語 偽りの別れ	・登場人物の関係を、場面設定や敬語の使われ方から整理し、理解する。 ・登場人物の言動から、心情を読み取る。
	8 月		夏季休業		
二 学 期	7 月 10 月	第二 学期 中間 考査	物語 4	源氏物語 須磨の秋 住吉参詣 明石の姫君入内 他	・後世に多大な影響を与えた物語を味わい、特徴的な表現や修辞技巧について理解を深める。 ・光源氏と様々な女性たちとの物語を味わう。 ・敬語の用法を習得する。
	10 月 12 月	第二 学期 期末 考査	総合問題	入試問題対策	・大学入試問題対策として、さまざまなジャンルの問題に取り組み、出題内容の知識の完成及び解答方法の対応を演習する。
三 学 期	12 月 3 月	学 年 末 考査	総合問題	入試問題演習	・過去問題の演習を行う。

授業計画：古典【漢文】

期	月	考査	単元	教 材	授業内容と着眼点
一 学 期	4 ～ 5 月	第一 学期 中間 考査	逸話	不顧後患 不死之道	・ 漢文に頻出する語彙や返読文字、置き字を確認する。 ・ 登場人物の発言の意図を理解する。
	5 ～ 7 月	第一 学期 期末 考査	史記 2	張儀列伝 荊軻伝	・ 張儀が認めている自己の能力を確認する。 ・ 蘇秦は張儀をどのように評価し、合従策を持続させるためにどのような策略を用いたかを確認する。 ・ 歌の内容を理解し、刺客荊軻の心情を読み取る。
	8 月		夏季休業		
二 学 期	7 ～ 10 月	第二 学期 中間 考査	三国志	三国志演義 ・ 張飛、大いに長坂橋を鬧がす ・ 諸葛孔明の智略	・ 曹操軍が逃走した理由と逃走に至る心理過程を確認する。 ・ 張飛の恐ろしさを確認する。 ・ 孔明の智略がどのように描かれているか確認する。
	10 ～ 12 月	第二 学期 期末 考査	総合問題	入試問題対策	・ 大学入学共通テスト対策を行う。
三 学 期	12 ～ 3 月	学 年 末 考査	総合問題	入試問題演習	・ 大学入学共通テスト・私大漢文対策を行う。

古典B (文系自由選択・理系必修選択・理系自由選択)
(2単位)

単位数	2
教科書	第一学習社 改訂版 古典B

1 講座のねらい

古文・漢文ともに主として大学入学共通テスト対応のための演習を行います。受講者の状況や希望によって、授業内容を弾力的に変更することもあります。いずれにせよ、入試頻出事項の徹底理解を図ります。

2 授業の内容と進め方

入試問題演習を行います。必ず問題を解いた上で受講してください。文系古典では解答を板書してもらうこともあります。どうしてその解答を導き出したのか、自分なりの理由を明確にしておくこと。スピーディーに進めるので、教員が口頭で述べたことを聞きながらノートにまとめる姿勢が求められます。ただし受け身で臨むのではなく、疑問や不明な点はその場で質問して確認しておきましょう。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

様々な文章の読解を通じて、論理的に思考する力やクリティカルシンキングなどの力を育成していきます。また、文章内容を理解する中で、生き方や将来について考える機会を多くもち、ものごとを判断する力を養っていきます。そして、授業において、ディスカッション、プレゼンテーション、作文等などの言語活動を活発に行い、表現力のアップも行っていきます。読書指導などを通じて、思考・判断・表現力をトータルに培っていきます。

4 学習する上での留意点

基本的に必修古典Bに準じますが、より「考える」ことを重視してください。

5 予習復習の実施

必修古典Bに準じます。

6 副教材・参考書

必修古典Bの項に加え、「改訂版プログレス 古典総演習 発展編」(いっずな書店)
「句形演習 新・漢文の基本ノート 二色刷」(日栄社)を使用します。

7 課題・補習について

各分野・教材ごとに課題などを提示します。演習や小テスト、夏休みの補習なども行います。夏休み補習は体系的・網羅的に実施し、実力養成を図ります。

8 評価の視点・考査について

授業時に行う定期考査の成績のほか、小テスト、課題提出、授業への取り組み態度・意欲などを総合的に勘案して評価します。

9 1年後の目標

大学入試に対応できるための読解力・知識を身につけ、解答作成力を向上させることが目標です。

授業計画：古典B（文系自由選択・理系必修選択・理系自由選択）

期	月	考査	単元	教 材	授業内容と着眼点
一 学 期	4 ～ 5 月	第一 学期 中間 考査	基本問題演習Ⅰ	文法の総復習 古文読解演習Ⅰ	・ 文法事項の復習を行うことで、定着を図る。 ・ さまざまなジャンルの問題に取り組み、大学入学共通テストに向けて出題内容の知識の習得及び解答方法の対応を演習する。
	5 ～ 7 月	第一 学期 期末 考査	基本問題演習Ⅱ	古文読解演習Ⅱ 古文読解演習Ⅲ 漢文重要語演習 漢文読解演習Ⅰ	・ さまざまなジャンルの問題に取り組み、大学入学共通テストに向けて出題内容の知識の習得及び解答方法の対応を演習する。 ・ 漢文重要語・句法の復習を行うことで、定着を図る。 ・ さまざまなジャンルの問題に取り組み、大学入学共通テストに向けて出題内容の知識の習得及び解答方法の対応を演習する。
	8 月		夏季休業		
二 学 期	7 ～ 10 月	第二 学期 中間 考査	総合問題演習Ⅰ	古文読解演習Ⅳ 漢文読解演習Ⅱ	・ 古文・漢文ともに大学入学共通テスト対策を中心に、さまざまなジャンルの問題に取り組み、出題内容の知識の完成及び解答方法の対応を演習する。
	10 ～ 12 月	第二 学期 期末 考査	総合問題演習Ⅱ	入試問題演習Ⅰ 入試問題演習Ⅱ	・ 過去問題、練習問題の演習とともに、これまでの学習の整理・補習を行う。
三 学 期	12 ～ 3 月	学 年 末 考査	総合問題演習Ⅲ	入試問題演習Ⅲ	・ 古文・漢文ともに入試問題に取り組み、出題内容の知識の完成及び解答方法の対応を演習する。

2 地理歴史

世界史B

文系選択 5 単位

単位数	5
担当者	地歴科教員 2 名
教科書	詳説世界史B (山川出版社)

1 講座のねらい

大学入試で世界史を必要とする生徒を主な対象として授業を行います。世界史を学ぶ上で大切なのは、年号や人名・地名をただ『覚えて』いくことではなく、さまざまな地域の多様な時代に生きた人々が、何に心を動かされ、何を求めてそのようなことをしたのかを『考えて』いくことにあります。「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目となる」(ヴァイツゼッカー元ドイツ大統領)という言葉があります。受験突破だけでなく、これからの世界をつくっていく皆さんが、よき道しるべを得ることを目指して、講座を展開します。

2 授業の内容と進め方

中世ヨーロッパから現代までの世界史を、2 学年に比べてとても速い進捗で、より深く学習していきます。慣れるまでは大変だと思いますが、集中して受講し、がんばってついてきて下さい。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

授業では、ただ説明に終始するだけでなく、皆さんに『考えて』もらい、意見を発表してもらいます。能動的に授業に参加して下さい。授業中に疑問点を質問することも大歓迎です。

4 学習する上での留意点

授業においては、ただ板書を写すだけではなく、教員の口頭での説明をどんどんノートにとり、用語集を使って発展的な内容も把握しましょう。不明な点があれば、遠慮なく担当者に質問して下さい。また、世界史学習において、地理的理解は必要不可欠です。授業で紹介した地名は、必ず資料集で確認しましょう。なお、適宜文学作品や映像資料を紹介しますが、それらを通じて、様々な時代・地域に関する豊かなイメージを身につけて下さい。

5 予習復習の実施

2 学年に比べて進捗が非常に速いので、毎回必ず教科書を読む予習、教科書を読み返す復習を行い、授業で得た内容を整理しましょう。知識定着の一助とすべく、問題演習も指示します。

6 副教材・参考書

『最新世界史図表 グローバルワイド 五訂版』(第一学習社)

… 授業中に該当ページを広げ、地図や年表、史料などをチェックします。

『改訂版 世界史B用語集』(山川出版社)

… 辞書のように使用し、用語についての理解の深化に活用します。

『詳説世界史10分間テスト』(山川出版社)

… 用語や図版に対する理解と定着に用います。

その他、大学受験用の問題集や参考書を、適宜紹介します。

7 課題・補習について

夏季・冬季休業中に講習を、授業日の放課後等に補習を、適宜実施します。また、休校日が連続するような時には、自分で学習できる教材を提供もしくは講習を実施します。

8 評価の視点・考査について

評価は4回の定期考査と平常点を組み合わせて行います。平常点は、小テスト、提出物点、授業中の態度などを総合的に評価します。

9 1年後の目標

難関大学に合格できる実力に到達することが目標ですが、それだけではなく、『世界市民』としての広い視野を身につけてほしいと思います。

授業計画：世界史B 文系選択（5単位）

期	月	考査	単元・考査等	授業内容	着眼点
一 学 期	4 ～ 5月	第一学期中間考査	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成	・中世ヨーロッパ（後半） ・ルネサンス、大航海時代、宗教改革	・ヨーロッパ中世世界の後半期の様相を学び、ルネサンスにつなげる。 ・ルネサンス大航海時代、宗教改革という、ヨーロッパを近世に移行させた3要素について学ぶ。
	5 ～ 7月	第一学期期末考査	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	・主権国家体制、絶対王政 ・ヨーロッパ諸国の海外進出 ・アメリカ独立革命、フランス革命とナポレオン戦争、産業革命	・近世ヨーロッパを特徴づける主権国家体制の成立と絶対王政を学ぶ。 ・英仏を中心に、ヨーロッパ諸国の海外進出を学ぶ。 ・市民革命と産業革命について学び、近代市民社会の特質を理解する。
	8月		夏季休業		
二 学 期	7 ～ 10月	第二学期中間考査	第11章 欧米における近代国家の発展 第13章 帝国主義とアジアの民族主義	・ウィーン体制とその崩壊 ・自由主義とナショナリズムの進展 ・帝国主義とアジアの対応	・ウィーン体制とその崩壊、自由主義とナショナリズムの進展について学び、帝国主義以前の19世紀の様相を理解する。 ・帝国主義を理解し、列強の対外進出とアジアの対応を学ぶ。
	10 ～ 12月	第二学期期末考査	第14章 二つの世界大戦 第15・16章 現在の世界	・第一次世界大戦、戦間期、第二次世界大戦 ・戦後史	・二つの世界大戦の原因と影響を学び、大衆民主主義について考察する。 ・世界大戦後、現在までの経過を学ぶ。
三 学 期	12 ～ 3月	学年末考査	特編授業 大学入試共通テスト	入試問題演習	・大学入学共通テスト対策 ・私立、国公立大学入試対策

世界史B

文系必修選択（2単位）

単位数	2
担当者	地歴科教員 2名
教科書	詳説世界史B（山川出版社）

1 講座のねらい

この講座は、大学入学試験で「世界史B」を受験科目と決めている生徒を対象に授業を行います。必修修「世界史B」ではヨーロッパの歴史を見ていくのに対して、必修選択「世界史B」では東アジアおよびイスラーム世界の歴史を見ていきます。見慣れない名前や難しい漢字などが出てきますが、予習や復習によってヨーロッパ以外の歴史にも理解を深めていきましょう。

2 授業の内容と進め方

古代から19世紀までのアジア史（中国、インド、イスラーム）を中心に学習します。さらに、アフリカや東南アジア、内陸アジアといった地域史にも目を向け、授業の終盤では、共通テストと私大入試を念頭においた演習問題にも挑戦してもらいます。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

歴史的出来事が“なぜ”起こったのか、その背景を全て理解することは大変です。

しかし、“なぜ”を考えることによって、前後の歴史的出来事がつながっていきます。

4 学習する上での留意点

ヨーロッパとは異なり、地名自体を聞いたことがない地域の歴史を学んでいくことにもあります。毎授業、資料集で地図を確認しつつ地理的な感覚を養ってください。また中国史では難しい漢字がたびたびでてくるので、何度も漢字を書き、記述問題にも対応できるようにしてください。

5 予習復習の実施

二年生のときと比べ、一回の授業ペースも速くなり、一週間の授業数も格段に多くなります。とりあえず、授業を聞いておいて後でまとめて復習しようとしても授業進度に追いつきません。常にわからない箇所は用語集などを用いて確認し、毎授業のペースについてこられるようにしてください。

6 副教材・参考書

『最新世界史図表 グローバルワイド 五訂版』（第一学習社）

…教科書と共に授業中は該当ページを広げ、地図や年表、資料に目を配ります。

『改訂版 世界史B用語集』（山川出版社）

…単なる語句の確認に終わらず、必ず説明文を読み、下線を引くなど工夫してください。

難関大学といわれる私大受験の際、正誤問題の解答に役立ちます。

『詳説世界史10分間テスト』（山川出版社）

…用語や図版に対する理解と定着をはかります。授業時、小テストをおこないます。

その他、適宜、参考書や問題集を紹介します。

7 課題・補習について

夏季・冬季休業中に講習を、授業日の放課後等に補習を、適宜実施します。また、休校日が連続するような時には、自分で学習できる教材を提供もしくは講習を実施します。

8 評価の視点・考査について

評価は4回の定期考査と平常点を組み合わせて行います。平常点は、小テスト、提出物点、授業中の態度などを総合的に評価します。

9 1年後の目標

難関大学に合格できる実力に到達することが目標ですが、それだけではなく、『世界市民』としての広い視野を身につけてほしいと思います。

授業計画：世界史B 文系必修選択（2単位）

期	月	考査	単元・考査等	授業内容	着眼点
一学期	4 ～ 5月	第一学期中間考査	第2章 アジア・アメリカの古代文明 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	・東南アジアの諸文明 ・南北アメリカ文明 ・草原の遊牧民とオアシスの定住民 ・北方民族の活動と中国の分裂	・世界各地の古代文明の発祥を学び、地域ごとの文化圏の基礎を理解する。 ・中国の歴史における遊牧民と農耕民の攻防に着目させつつ、中国史の展開を学ぶ。
		第一学期期末考査	第4章 イスラーム世界の形成と発展	・イスラーム世界の形成 ・イスラーム世界の発展 ・インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 ・イスラーム文明の発展	・イスラームという宗教の特徴を学び、西アジアを中心に西はイベリア半島、東はトルキスタンまでの広範囲にわたる地域の歴史であることを理解する。
	8月	夏季休業			
二学期	7 ～ 10月	第二学期中間考査	第6章 内陸アジア・東アジア世界の展開 第7章 アジア諸地域の繁栄	・トルコ化とイスラーム化の進展 ・東アジア諸地域の自立化 ・モンゴルの大帝国 ・東アジア世界の動向 ・清代の中国と隣接諸地域 ・トルコ・イラン世界の進展	・イスラーム化の進展と同時にヨーロッパ社会との関わりを学ぶ。 ・モンゴルの支配を通じたユーラシア一体の歴史を学ぶ。 ・中華の世界秩序の確立と覇権の様子を学ぶ。
		第二学期期末考査	第12章 アジア諸地域の動揺	・ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展 ・オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容 ・東アジアの激動	・イラン、インド、トルコの三帝国による世界秩序が確立された後、ヨーロッパ勢力との争いの中で、衰退していくアジア世界を学ぶ。
三学期	12 ～ 3月	学年末考査	特編授業 大学入学共通テスト	入試問題演習	・大学入学共通テスト演習 ・私立・国公立大学入試問題演習

日本史B 文系選択（5単位）

単位数	5
担当者	地歴科教員 1名
教科書	詳説日本史B（山川出版社）

1 講座のねらい

この講座では、幕末・明治・大正・昭和の近現代史を学びます。近代以降の日本が欧米諸国との関わりの中でどのような刺激を受けてきたのか、またアジア諸国とどのように関わってきたのかを視野に入れつつ、国内の政治や社会・経済がどのように推移してきたのかを捉えていきます。その中で、今の日本が抱える諸問題が歴史上の何に起因しているのかを考察できるようになることがこの講座の狙いです。

2 授業の内容と進め方

授業は、講義を中心として、概ね教科書の記述の順序に沿って基本的な歴史の流れを理解してもらうことを主眼として進めます。授業の中で教科書はもちろん、副教材（図説や史料集）・用語集などを参照することもあるので、これらの教材は必ず持参してください。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

日本史学習で大事なことは、暗記ではありません。歴史の流れと歴史事象の因果関係を理解することです。そこで、一つの事件についてその背景や内容、与えた影響などを文章にしてみようような作業を取り入れます。

4 学習する上での留意点

最も大切なことは、授業に集中して取り組むことです。その上で、次のことを心がけてください。

- ① 教科書を読んで、流れを確認しつつ、授業でもれた情報を拾う。
- ② 図説で図表を確認・史料集で関連する史料にあたる。
- ③ わからない歴史用語などは用語集で調べる。
- ④ 疑問点を整理し、調べてもわからないことは積極的に質問する。

5 予習復習の実施

必ず復習をするように心がけてください。その際、問題練習をすることや、復習を繰り返し実施することが知識を定着させる上で大切なことです。

6 副教材・参考書

◎副教材 『新詳日本史』（浜島書店） 『日本史用語集A・B共用』（山川出版社）
『詳録新日本史史料集成』（第一学習社）『詳説日本史改訂版10分間テスト』（山川出版社）

※10分間テストのみ、三年生で新たに購入する必要があります。

7 課題・補習について

補習・講習については夏季休業・冬季休業中などに適宜実施する予定です。詳細については随時連絡します。また、課題は各担当者が課すことがあります。

8 評価の視点・考査について

評価は4回の定期テストと平常点（課題あるいはノート・小テスト・出欠状況・授業態度等）を組み合わせで行います。

9 1年後の目標

各自が目標とするような大学（国公立大学・早慶上智・GMARCH）に合格する学力を身につけていくことが目標です。ともにガンバっていきましょう！

授業計画：日本史B 文系選択（5単位）

期	月	考査	単元	授業内容	着眼点
一学期	4 ～ 5月	第一学期中間考査	第9章近代国家の成立	①開国と幕末の動乱 ②明治維新と富国強兵 ③立憲国家の成立と日清戦争 ④日露戦争と国際関係 ⑤近代産業の発展	近代国家の形成と特色 立憲国家の形成過程と特徴 2度の対外戦争の要因と影響
	5 ～ 7月	第一学期期末考査	第9章近代国家の成立 第10章二つの世界大戦とアジア	⑥近代産業の発達 ①第一次世界大戦と日本 ②ワシントン体制 ③市民生活の変容と大衆文化 ④恐慌の時代	大正デモクラシーにつながる 民衆の意識の成熟 新たな国際的枠組みの様相 恐慌の要因と影響
	8月	夏季休業			
二学期	7 ～ 10月	第二学期中間考査	第10章二つの世界大戦とアジア 第11章占領下の日本 第12章高度成長の時代	⑤軍部の時代 ⑥第二次世界大戦 ①占領と改革 ②冷戦の開始と講和 ③55年体制	中国との戦争と対米関係 戦時総力戦体制と民衆の意識 及び生活の様相 戦後改革の狙いと結果 冷戦の国際的背景と展開 55年体制の意味と影響
	10 ～ 12月	第二学期期末考査	第12章高度成長の時代 第13章激動する世界と日本 特編授業	②経済復興から高度成長へ ①経済大国への道 ②冷戦終結と日本社会の動揺 問題演習	市民生活の変化 現代日本の諸問題と歴史の関連性
三学期	12 ～ 3月	学年末考査	特編授業 大学入学共通テスト 私立大学入学試験 国立大学前期入学試験 卒業式 国立大学後期入学試験	問題演習	

単位数	2
担当者	地歴科教員 2名
教科書	詳説日本史B（山川出版社）

1 講座のねらい

日本史受験者向けの講座です。戦国時代から江戸時代にかけての時代をあつかいます。大学入試のための学力をつけるのがこの講座の狙いです。

2 授業の内容と進め方

授業は、講義を中心として、概ね教科書の記述の順序に沿って基本的な歴史の流れを理解してもらうことを主眼として進めます。授業の中で教科書はもちろん、副教材（図説や史料集）・用語集などを参照することもあるので、これらの教材は必ず持参してください。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

日本史学習で大事なことは、暗記ではありません。歴史の流れと歴史事象の因果関係を理解することです。そこで、一つの事件についてその背景や内容、与えた影響などを文章にしてみようような作業を取り入れます。

4 学習する上での留意点

最も大切なことは、授業に集中して取り組むことです。その上で、次のことを心がけてください。

- ① 教科書を読んで、流れを確認しつつ、授業でもれた情報を拾う。
- ② 図説で図表を確認・史料集で関連する史料にあたる。
- ③ わからない歴史用語などは用語集で調べる。
- ④ 疑問点を整理し、調べてもわからないことは積極的に質問する。

5 予習・復習の実施

必ず復習をするように心がけてください。その際、問題練習をすることや、復習を繰り返し実施することが知識を定着させる上で大切なことです。

6 副教材・参考書

◎副教材 『新詳日本史』（浜島書店） 『日本史用語集』（山川出版社）
『詳録新日本史史料集成』（第一学習社） 『詳説日本史改訂版10分間テスト』（山川出版社）

※10分間テストのみ、三年生で新たに購入する必要があります。。

◎参考書（例） 改訂版『石川昌康 日本史B講義の実況中継』①～④（語学春秋社）

◎問題集（例） 『実力をつける日本史100題』（Z会出版編集部）
『日本史B 一問一答』（金谷俊一郎 東進ブックス）

7 課題・講習・補習について

補習・講習については夏季休業・冬季休業中などに適宜実施する予定です。詳細については、随時連絡します。

8 評価の視点・考査について

評価は4回の定期テストと平常点（課題あるいはノート・小テスト・出欠状況・授業態度等）を組み合わせで行います。

評定は必修選択日本史5単位と合算して7単位として出します。

9 1年後の目標

各自が目標とするような大学（国公立大学・早慶上智・GMARCH）に合格する学力を身につけていくことが目標です。ともにガンバっていきましょう！

授業計画：日本史B 文系必修選択（2単位）

期	月	考查	単元	授業内容	着眼点
一学期	4 ～ 5月	第一学期中間考查	第5章武家社会の成長	④戦国大名の登場	戦国大名の分国支配の方法や都市の発展を理解する
	5 ～ 7月	第一学期期末考查	第6章幕藩体制の確立 第7章幕藩体制の展開	①織豊政権 ②桃山文化 ③幕藩体制の成立 ④幕藩体制の構造 ①幕政の安定	天下統一過程を把握するとともに、近世的制度の創出と文化の特色を理解する。 江戸幕府成立過程を理解するとともに、職制・大名支配の方法、農民支配などを理解する。 文治政治の成立と展開の過程とその特色を理解する。
	8月	夏季休業			
二学期	7 ～ 10月	第二学期中間考查	第7章幕藩体制の展開 第8章幕藩体制の動揺	②経済の発展 ③元禄文化 ①幕政の改革 ②宝暦・天明期の文化	農業の発展・流通機構の発達を契機として成立した文化の特色を理解する。 享保改革・田沼時代・寛政改革の政策的特色を理解する。
	10 ～ 12月	第二学期期末考查	第8章幕藩体制の動揺	③幕府の衰退と近代への道 ④化政文化	大御所時代・天保改革の政治的特色を理解する。 江戸時代後半の文化の特色を理解する。
三学期	12 ～ 3月	学年末考查	特編授業 大学入学共通テスト 私立大学入学試験 国立大学前期入学試験 卒業式 国立大学後期入学試験	問題演習	

地 理 B**文理共通自由選択**

単位数	2
担当者	地歴科教員 2名
教科書	新詳地理B 最新版 新詳高等地図最新版

1 講座のねらい

この講座は、大学受験で地理を選択する人を対象としています。第1学年で学習した地理学習を基本に、基礎的な内容の再確認から、総合的かつ高度な内容までの学習を行います。

具体的には大学入学共通テストに対応した内容の分析や資料の解読などの技能を高めるとともに、実戦的な演習を行い確実な学力アップを目指します。

2 授業の内容と進め方

① 1年次に学習した内容を復習・整理しながら、未習事項を中心に講義を進めます。小さな單元ごとに復習を兼ねた実戦的な演習問題を実施します。

② 授業は週1日で2時間です。この時間だけでは十分な演習はできませんから、副教材の問題集を進度に合わせて各自で進めてください。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

① センター試験、共通テストの過去問や国公立・私立大学の問題演習を通じて、問題解法の着眼点を養います。

4 学習する上での留意点

① 共通テストは図・表・地図・写真等のデータを分析する力が求められますが、その力をつけるには問題演習が重要です。副教材の問題集は計画的に自主的に進めてください。

② 地理学習は非常に幅広い内容を扱うため、地理の授業に集中するだけではなく、日常から、多様な内容に対応できるように、新聞やテレビのニュースなどを確認し、世界と日本、身近な地域の変化に敏感になってください。政治・経済や世界史等の他科目の学習も重要です。

5 予習・復習の実施

① 大学受験で利用する人は、年間を通じて教科書、副教材、問題集などを利用して自主的に行ってください。

6 副教材・参考書

○ 最詳地理資料 COMPLETE 2021（1年次使用したもの） 写真・図表が豊富です。

○ 地理統計要覧2023年版（二宮書店）

○ 単元別問題集（駿台文庫） 共通テスト対策の良問が精選されています。

7 課題・補習について

夏休みに集中的に補習を行います。冬休みも必要に応じて補習を行います。

8 評価の視点・考査について

定期考査・提出物などで総合的に評価を行います。

9 1年後の目標

大学受験に向けて、目標とする大学に合格できる学力を養成する。

授業計画： 地理B (2単位)

期	月	考 査	単元	授業内容	着眼点
一 学 期	4 ～ 5 月	第一 学期 中間 考査	系統地理的考察 －人口、村落・都市 －資源と産業	世界の人口問題・食糧問題 村落と都市 世界の都市・居住問題	先進国と途上国の問題の差異 村落と都市の形態と機能 先進国と途上国の問題の差異
	5 ～ 7 月	第一 学期 期末 考査	系統地理的考察 －資源と産業 地誌的考察 －現代世界の諸地域	第3次産業 貿易と経済 ラテンアメリカ地誌	第3次産業の発展と観光業 主な貿易内容と相手国 各地域の現代史、民族・宗教、 産業等
	8 月		夏期講習 (①宗教、人種・民族、民族問題 ②気候 ③ヨーロッパ地誌 ④貿易と経済)		
二 学 期	7 ～ 10 月	第二 学期 中間 考査	地誌的考察 －現代世界の諸地域 系統地理的考察 －自然環境 系統地理的考察 －資源と産業	オセアニア地誌 アフリカ地誌 環境問題 農林水産業	各地域の現代史、民族・宗教、 産業等 問題の諸相 農業の地域区分・現状・課題
	10 ～ 12 月	第二 学期 期末 考査	系統地理的考察 －資源と産業 地誌的考察 －現代世界の諸地域	資源・エネルギー アングロアメリカ地誌 世界の工業 ロシア地誌	化石燃料の分布と利用、発電の内 訳 各地域の現代史、民族・宗教、 産業等 世界の工業地域 ロシアの国土と産業
三 学 期	1 2 ～ 3 月		全単元	問題演習	苦手分野の克服を中心とした問 題演習

3 公 民

政治・経済

文系、理系②必修

単位数	2
担当者	公民科教員 1名
教科書	「政治・経済」 東京書籍

1 講座のねらい

第1学年で学んだ教科「現代社会」の内容を基礎として、社会事象や現代社会の仕組み、特徴・課題を特に政治分野と経済分野の両面から理解、考察していくことを目標とします。

2 授業の内容と進め方

詳細は「授業計画」を見てください。実際には週2単位の授業ですべての項目を網羅することは難しいため、触れられない分野は自由選択で扱います。授業の方法は、講義形式が中心になりますが、その他必要に応じて、その他の授業形式も実施することがあります。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

必要に応じて、自らの考えを書くこと・発表することや、グループでの討論等を行います。

4 学習する上での留意点

社会的事象に興味・関心をもち授業内容の理解を深めるため、新聞やテレビ、インターネットのニュースを通じて世の中の出来事に注目しましょう。授業でも日常的に取り上げます。

集中して授業に取り組むことが重要です。政治・経済で大学を受験する人や、定期考査で高得点を望みたい人などは、その日のうちに1度復習しておくことをお勧めします。授業の流れを語れる状態にしておきましょう。

特に、受験で政治・経済を使う人は、暗記をしようとする前にそれぞれの授業内容を十分に理解することがまず重要になるので、そのことを十分に心がけて学習するようにしてください。知識を定着させるためにはただ覚えるのではなく、内容を理解することが大切です。

5 予習復習の実施

予習は特に必要ありませんが、日常的に新聞等を読み、世の中の動き、情勢について知る、ある程度の理解をしておくことが必要です。また、短時間でも授業内容を振り返り定着を図ることが重要です。

6 副教材・参考書

『最新図説 政経』浜島書店

他に、あると便利なもの、例えば用語集や問題集などについては授業の中で紹介します。

7 課題・講習・補習

長期休業中の講習の他、放課後などに随時、補講を行います。

8 評価の視点・考査について

主に定期考査の得点に、課題提出などの平常点を加えて評価を出します。

9 1年後の目標

社会の出来事や情勢を自分事として捉え、内容が理解でき、それに対する自分なりの考えをもてるようになる。

授業計画：政治・経済 文系、理系②必修

期	月	考査	単元	授業内容	着眼点
一学期	4 ～ 5月	第一学期 中間考査	民主政治の 基本原理 日本国憲法と 民主政治	民主政治の原理と発展 世界の政治体制 日本国憲法の成立 平和主義 基本的人権の保障	政治分野の導入なので、政治・法・民主主義・人権などの基本的な理念を理解する。 世界史の基本知識とも関連付ける。 日本の安全と平和をさまざまな面から考える。 時事的な問題にも触れる。 法の下の平等。自由権の基本権。
		第一学期 期末考査	日本の政治制度	基本的人権の保障 日本の三権分立 地方自治のあり方	基本的人権では、判例もふまえ事例研究も行う。 政治制度の仕組みをしっかりと理解する。
	8月	夏季休業			
二学期	7 ～ 10月	第二学期 中間考査	現代日本の政治 国際政治と日本 経済社会の発展 現代経済のしくみ	戦後政治の歩み 国際法、国際連合 戦後国際政治の展開 軍縮、民族紛争 資本主義経済の特徴 市場機構	現状や問題点にも目を向け、考察する。 戦後日本史の知識とも関連付ける。 時事的な問題にも十分に目を向けよう。 世界史の知識とも関連付ける。 経済とは何かということや、資本主義経済の変容の歴史的流れを把握する。 需要と供給の法則などを十分に理解する。
		第二学期 期末考査	現代経済のしくみ 現代経済と福祉	国民所得と景気変動 金融と財政 戦後日本経済史 日本経済各論	国内総生産（GDP）の変化と景気変動、日本経済の金融・財政の現状等について、理解する。 戦後日本経済を概観する。 現在の日本経済を、現実にも目を向けながら学習する。
三学期	12 ～ 3月	学年 末考査	特別編成授業	受験に向けた問題演習	共通試験、私大入試の過去問研究

政治・経済

文理共通自由選択

単位数	2
担当者	公民科教員 1名
教科書	「政治・経済」 東京書籍

1 講座のねらい

大学入学共通テストや私大等の入学試験などに対応できる学力を育成します。

2 授業の内容と進め方

経済分野から始めて、政治分野から始まる必修とあわせて政経の全分野を前期中に終了させ、その後必修で触れられなかった政治分野等を扱います。11月以降は共通テスト対策や私大一般入試の問題演習を実施していきます。

授業中に扱えない部分については、夏季講習、補講で扱います。共通テスト対策等も、随時行います。授業形態としては、いずれも講義形式が主になります。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

入試問題を解く上で思考力・判断力・表現力を育成します。

4 学習する上での留意点

- ・問題演習は時間内では終わらないことも多いので、終わらない場合は宿題となります。問題演習の後は、やりっ放しにしないで、理解不足の分野を十分に把握し、知識を補充していくために、専用のノートを用意するといいいでしょう。
- ・学習事項の理解を深め、受験での時事問題にも対処できるようにするために、新聞の記事や社説を読むことや、テレビのニュース番組を見たりすることも重要です。
- ・難易度の高い大学を「政治・経済」で受験しようと考えている人は、100字前後の論述問題への対応や、その他の問題によく出される幅広い用語（教科書の太字にはなっていないが、新聞には出てくるような用語）に慣れるためにも、各種新書本を早めに読んでおくことをお勧めします。

5 予習復習の実施

- ・毎時間の授業の復習とともに、学習内容をもとに自ら問題を解くことも重要になります。

6 副教材・参考書

- ・『最新図説 政経』浜島書店、『ベストセクション大学共通テスト2024』実教出版

7 課題・補習について

夏休み（夏季講習）の他、放課後などに随時、補講を行います。
対象者別に行います。そのつど連絡します。

8 評価の視点・考査について

定期考査の得点に、課題提出などの平常点を加えて評価を出します。

9 1年後の目標

社会事象に対する興味関心と理解を深めるとともに、自らの目指す大学の入試問題において相当程度の解答ができること。

授業計画：政治・経済 文理共通自由選択 （2単位）

期	月	考査	単元	授業内容	着眼点
一学期	4 ～ 5月	第一学期中間考査	経 済	教材：教科書、資料集 問題集、 プリント	資本主義：しくみと歴史的流れを把握する。 経済主体、市場機構など 十分に理解する。 独占と市場の失敗、経済成長と景気変動、金融・財政 基本的理論を正しく把握する。
	5 ～ 7月	第一学期期末考査	経 済	教材：教科書、資料集 問題集、 プリント	日本経済の諸課題①（戦後日本経済史、中小企業・農業、消費者問題、環境問題） 時事的問題等にも目を向けながら考察する。 日本経済の諸課題②（労働、社会保障制度） 時事的問題等にも目を向けながら考察する。
	8月	夏季休業			
二学期	7 ～ 10月	第二学期中間考査	経 済	教材：教科書、資料集 問題集 プリント	国際経済（国際収支表と為替相場。戦後国際経済の動向。南北問題など） 時事的問題等にも目を向けながら考察する。 民主政治の原理、憲法と基本的人権・平和政治制度 時事的問題等にも目を向けながら考察する。
	10 ～ 12月	第二学期期末考査	問題演習	教材：教科書、資料集 問題集 プリント	現代日本の政治、国際社会と日本 問題演習（共通テスト、私大対策）
三学期	12 ～ 3月	学年末考査	特別編成授業	教材：教科書、資料集 問題集 プリント	問題演習（共通テスト、私大対策） 個別指導

単位数	2
担当者	公民科教員 1名
教科書	「現代社会」 帝国書院

1 講座のねらい

大学入学共通テストや私大等の入学試験などに対応できる学力を育成します。

2 授業の内容と進め方

経済分野から始めて、政治分野から始まる必修「政治・経済」とあわせて現代社会の政治経済分野を前期中に終了させ、その後必修で触れられなかった政治分野等を扱います。11月以降は共通テスト対策や私大一般入試の問題演習を実施していきます。

授業中に扱えない倫理分野、思想分野については、夏季講習、補講で扱います。共通テスト対策等も、随時行います。授業形態としては、いずれも講義形式が主になります。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

入試問題を解く上で思考力・判断力・表現力を育成します。

4 学習する上での留意点

- ・問題演習は時間内では終わらないことも多いので、終わらない場合は宿題となります。問題演習の後は、やりっ放しにしないで、理解不足の分野を十分に把握し、知識を補充していくために、専用のノートを用意するといいいでしょう。
- ・学習事項の理解を深め、受験での時事問題にも対処できるようにするために、新聞の記事や社説を読むことや、テレビのニュース番組を見たりすることも重要です。
- ・難易度の高い大学を「現代社会」で受験しようと考えている人は、100字前後の論述問題への対応や、その他の問題によく出される幅広い用語（教科書の太字にはなっていないが、新聞には出てくるような用語）に慣れるためにも、各種新書本を早めに読んでおくことをお勧めします。

5 予習復習の実施

- ・毎時間の授業の復習とともに、学習内容をもとに自ら問題を解くことも重要になります。

6 副教材・参考書

- ・『最新図説 政経』浜島書店、『ベストセクション大学共通テスト2024』実教出版

7 課題・補習について

夏休み（夏季講習）の他、放課後などに随時、補講を行います。
対象者別に行います。そのつど連絡します。

8 評価の視点・考査について

定期考査の得点に、課題提出などの平常点を加えて評価を出します。

9 1年後の目標

社会事象に対する興味関心と理解を深めるとともに、自らの目指す大学の入試問題において相当程度の解答ができること。

授業計画：政治・経済 文理共通自由選択（2単位）

期	月	考査	単元	授業内容	着眼点
一学期	4 ～ 5月	第一学期中間考査	経 済	教材：教科書、資料集 問題集、 プリント	資本主義：しくみと歴史的流れを把握する。 経済主体、市場機構など 十分に理解する。 独占と市場の失敗、経済成長と景気変動、金融・財政 基本的理論を正しく把握する。
	5 ～ 7月	第一学期期末考査	経 済	教材：教科書、資料集 問題集、 プリント	日本経済の諸課題①（戦後日本経済史、中小企業・農業、消費者問題、環境問題） 時事的問題等にも目を向けながら考察する。 日本経済の諸課題②（労働、社会保障制度） 時事的問題等にも目を向けながら考察する。
	8月	夏季休業			
二学期	7 ～ 10月	第二学期中間考査	経 済	教材：教科書、資料集 問題集 プリント	国際経済（国際収支表と為替相場。戦後国際経済の動向。南北問題など） 時事的問題等にも目を向けながら考察する。 民主政治の原理、憲法と基本的人権・平和政治制度 時事的問題等にも目を向けながら考察する。
	10 ～ 12月	第二学期期末考査	問題演習	教材：教科書、資料集 問題集 プリント	現代日本の政治、国際社会と日本 問題演習（共通テスト、私大対策）
三学期	12 ～ 3月	学年末考査	特別編成授業	教材：教科書、資料集 問題集 プリント	問題演習（共通テスト、私大対策） 個別指導

4 数 学

数学Ⅲ 理系①必修

単位数	5
担当者	数学科教員 3名
教科書	高等学校 数学Ⅲ(数研出版)

1 講座のねらい

複素数平面、平面上の曲線、数列の極限、関数の極限、微分法及び積分法について学びます。これまでは事象を有限の中で扱ってきましたが、無限という概念を数列や関数に導入して事象を扱います。この分野の理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育成します。

2 授業の内容と進め方

詳細については次頁の授業計画を参照してください。先に数学Ⅲの基礎的内容を学習し、7月から大学入試問題演習及び解説を行います。習熟度別授業を実施し、少人数できめの細かい指導を展開します。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

学んだ内容は、自分で演習をしてこそ自分のものになります。問題文の何が鍵になるのか意識して絶えず自分で思考し、記述・論証する習慣をつけてください。安易に解答に頼る癖は封印します。また、黒板やノートで自分の解答を観てもらいましょう。他者からの評価をもらうことで、独りよがり克服しましょう。

4 学習する上での留意点

- ① 予習は必須です。自分で考える姿勢を継続してこそ力が付きます。予習で最も大切なことは、「わからないことは何かを明確にする」ことです。
- ② 予習→授業(疑問の解決)→復習(問題演習)という学習サイクルを改めて定着させましょう。
- ③ 夏季休業中には講習等で、入試基本問題演習で入試数学の土台を作りきることが大切です。
- ④ 解けなかった問題は、答を導くための方針を解答で理解した上で、問題集を活用しながら、手を動かして自分の体に馴染ませるようにします。特に「計算」は解答に頼ってはいけません。

5 予習復習の実施

数学Ⅲは週5時間で展開します。予習復習無くして授業についていくことは不可能です。

6 副教材・参考書

副教材:教科書傍用問題集「4プロセス 数学Ⅲ」(数研出版) 入試問題集:「リンク数学演習Ⅲ」(数研出版)

参考書:チャート式基礎からの数学Ⅲ(数研出版)

7 課題・講習について

様々な種類の課題を課します。余裕をもって着実に取り組んでください。担当者の指示に従ってください。講習は、長期休業中を中心に様々なレベルで実施する予定です。

8 評価の視点・考査について

評価は、年間計4回の定期考査を中心に総合的に判断します。

9 1年後の目標

極限、微積分計算を間違えずに求められ、グラフを描き、面積を求めることができる。

初見の入試問題に対し、思考・分析・判断を継続することができるようになる。

授業計画：数学Ⅲ（５単位）

期	月	考査	単元	授業内容	着眼点
一学期	4 ～ 5月	第一学期中間考査	第4章 極限 2節 関数の極限 第5章 微分法 1節 導関数 2節 いろいろな関数の導関数 第6章 微分法的应用 1節 接線、関数の増減 2節 微分のいろいろな応用	第4章・関数の極限・三角関数と極限・関数の連続性 第5章・微分係数と導関数・導関数の計算 第6章・接線の方程式・平均値の定理・関数の値の変化・関数のグラフ・方程式不等式への応用・速度と加速度・近似式	関数の極限について理解する。三角関数と極限の関係、連続性について理解する。 関数の導関数について理解する。三角関数・指数関数・対数関数の導関数を求める。 曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減・極大・極小・グラフの凹凸などを調べ、グラフの概形をかいたりする。
		第一学期期末考査	第7章 積分法とその応用 1節 不定積分 2節 定積分 3節 面積・体積・長さ	第6章・第7章・不定積分とその性質・置換積分法と部分積分法・いろいろな関数の不定積分・定積分とその基本性質・置換積分法と部分積分法・面積・体積・道のり・曲線の長さ	積分について理解を深めるとともに、その有効性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。
	8月	夏季休業 内容別・レベル別夏期講習			
二学期	7 ～ 10月	第二学期中間考査	入試基礎問題演習	数学Ⅲ入試問題の基礎を演習・解説	入試問題集「リンク数学演習Ⅲ」の基本問題を定着させる。
	10 ～ 12月	第二学期期末考査	入試 <u>標準</u> 問題演習	数学Ⅲ入試問題の標準を演習・解説	入試問題集「リンク数学演習Ⅲ」の標準問題を定着させる。
三学期	12 ～ 3月	学年末考査	入試 <u>標準</u> 問題演習	数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Ⅲの融合問題を演習・解説	入試過去問題の取り組み。

数学B**理系①必修**

単位数	4
担当者	数学科教員2名
教科書	数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B(数研出版)

1 講座のねらい

既習の「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」の範囲の問題を演習し、大学入試の標準的な問題が解答できる能力を育てる。

2 授業の内容と進め方

詳細については、次頁の授業計画を参考にしてください。この講座は、週4時間クラス単位で行う授業です。夏季休業前までに数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの入試基本問題をひと通り学習し、7月からは、標準以上の大学入試問題の演習と解説を行います。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

学んだ内容は、自分で演習をしてみて初めて自分のものになります。問題文の何が鍵になるのか意識して絶えず自分で思考し、記述・論証する習慣をつけてください。安易に解答に頼る癖は封印します。また、黒板やノートで自分の解答を観てもらいましょう。他者からの評価をもらうことで、独りよがり克服しましょう。

4 学習する上での留意点

- ① 予習は必須です。授業に先行して、よく読み自分で考える姿勢を継続してこそ力が付きます。予習で最も大切なことは、「わからないことは何かを明確にする」ことです。授業で疑問を解決しましょう。
- ② 予習→授業→復習(問題演習)学習サイクルを改めて定着させましょう。
- ③ 夏季休業中には講習等で、入試基本問題演習で入試数学の土台を作りきることが大切です。
- ④ 解けなかった問題は、答を導くための方針を解答で理解した上で、もう一度自分の力だけで解けるようになったかを確認します。途中の「計算」は解答に頼ってはいけません。手を動かして自分の体に馴染ませるようにすることが大事です。

5 副教材・参考書

副教材「メジアン数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B」(数研出版)

6 予習復習の実施

数学Bは週4時間で展開します。毎日の予習・復習に加え、週単位でしっかり再度復習してください。

7 課題・講習について

詳しくは授業担当者の指示に従ってください。

講習は、長期休業中を中心に様々なレベルで適切な時期に実施する予定です。

8 評価の視点・考査について

評価は、年間計4回の定期考査を中心に総合的に判断します。

9 1年後の目標

初見の入試問題に対し、思考・分析・判断を継続することができるようになる。

大学入試の標準的な問題が正解できるようになる。

授業計画：数学B(理系1必修) (4単位)

期	月	考查	単元	授業内容	着眼点
一 学 期	4 ～ 5月	第一 学期 中間 考查	「メジアン数学演習 I・II・A・B」演習	2年次既習内容の確認と補足 入試問題の演習と解説	各単元において、確認テスト・課題提出等を行い、演習内容の定着をはかる。
	5 ～ 7月	第一 学期 期末 考查	「メジアン数学演習 I・A・II・B」演習	入試問題の演習と課題	各単元において、確認テスト・課題提出等を行い、演習内容の定着をはかる。
	8月	夏季休業 内容別・レベル別夏期講習			
二 学 期	7 ～ 10月	第二 学期 中間 考查	「メジアン数学演習 I・II・A・B」演習	入試問題の演習と課題	各単元において、確認テスト・課題提出等を行い、演習内容の定着をはかる。
	10 ～ 12月	第二 学期 期末 考查	入試問題演習	入試問題 I・A・II・B 総合問題 演習と解説	入試過去問題の取り組み。
三 学 期	12 ～ 3月	学 年 末 考 査	入試問題演習	入試問題 I・A・II・B 総合問題 演習と解説	入試過去問題の取り組み。

数学Ⅱ＋数学B

理系②必修

単位数	7(数学Ⅱ4単位、数学B3単位)
担当者	数学科教員2名
教科書	数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B(数研出版)

1 講座のねらい

「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」の範囲の問題を演習し、大学入試の標準的問題が解答できる能力を育てる。

2 授業の内容と進め方

詳細については、右頁の授業計画を参考にしてください。この講座は、週7時間クラス単位で行う授業です。夏季休業前までに問題集の基本問題をひと通り学習し、9月からは、標準的な入試問題の演習を行います。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

授業で学んだ内容は、自分で演習をしてみてもはじめて自分のものになります。絶えず自分で思考し、記述・論証する習慣をつけてください。そして黒板やノートで自分の解答を観てもらいましょう。他者からの評価をもらうことで、自分の独りよがりを克服しましょう。

4 学習する上での留意点

- ① 予習は必須です。授業に先行して、よく読み自分で考える姿勢を継続してこそ力が付きます。予習で最も大切なことは、「わからないことは何かを明確にする」ことです。授業で疑問を解決しましょう。
- ② 予習→授業→復習(問題演習)学習サイクルを改めて定着させましょう。
- ③ 夏季休業中には講習等で、入試基本問題演習で入試数学の土台を作りきることが大切です。
- ④ 解けなかった問題は、答を導くための方針を解答で理解した上で、もう一度自分の力だけで解けるようになったかを確認します。途中の「計算」は解答に頼ってはいけません。手を動かして自分の体に馴染ませるようにすることが大事です。

5 副教材・参考書

副教材：「シニア数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B」(数研出版)

参考書：「チャート式基礎からの数学Ⅰ＋A」(数研出版)

「チャート式基礎からの数学Ⅱ＋B」(数研出版)

6 予習復習の実施

数学Ⅱ＋Bは週7時間で展開します。毎日の予・復習に加え、週単位でしっかり復習してください。

7 課題・補習について

詳しくは授業担当者の指示に従ってください。講習は、長期休業中を中心に様々なレベルで適切な時期に実施する予定です。積極的に参加してください。

8 評価の視点・考査について

評価は、年間計4回の定期考査を中心に総合的に判断します。

9 1年後の目標

初見の入試問題に対し、思考・分析・判断を継続することができるようになる。

大学入試の標準的な問題が解答できる能力を育てる。

授業計画：数学Ⅱ＋B(理系2必修) (7単位) (数学Ⅱ 4単位・数学B 3単位)

期	月	考查	単元	授業内容	着眼点
一学期	4 ～ 5月	第一学期中間 考查	「シニア数学演習 Ⅰ・Ⅱ・A・B」演習	入試問題の演習と解説	各単元において、確認テスト・課題提出等を行い、演習内容の定着をはかる。
	5 ～ 7月	第一学期期末 考查	「シニア数学演習 Ⅰ・Ⅱ・A・B」演習	入試問題の演習と解説	各単元において、確認テスト・課題提出等を行い、演習内容の定着をはかる。
	8月	夏季休業 内容別・レベル別夏期講習			
二学期	7 ～ 10月	第二学期中間 考查	「シニア数学演習 Ⅰ・Ⅱ・A・B」演習	入試問題の演習と解説	各単元において、確認テスト・課題提出等を行い、演習内容の定着をはかる。
	10 ～ 12月	第二学期期末 考查	「シニア数学演習 Ⅰ・Ⅱ・A・B」演習	入試問題の演習と解説	各単元において、確認テスト・課題提出等を行い、演習内容の定着をはかる。
三学期	12 ～ 3月	学年末 考查	入試問題演習	入試問題Ⅰ・A・Ⅱ・B総合問題演習と解説	入試過去問題の取り組み。

数学Ⅱ(文系:共通テスト)

単位数	4
担当者	数学科教員1名
教科書	数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B(数研出版)

1 講座のねらい

文系の生徒を対象に、「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」の範囲の問題を演習し、大学入試問題に解答できる能力を育てる。

2 授業の内容と進め方

詳しい内容については、右ページの授業計画を参考にしてください。この講座は、大学入学共通テストを受験する生徒を対象とした授業を行います。夏季休業前までに問題集の基本問題をひと通り学習し、9月からは、標準的入試問題の演習と解説を行います。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

授業で学んだ内容は、自分で演習をしてみればじめて自分のものになります。絶えず自分で思考し、記述・論証する習慣をつけてください。そして黒板やノートで自分の解答を観てもらいましょう。他者からの評価をもらうことで、自分の独りよがり克服しましょう。

4 学習する上での留意点

- ① 予習は必須です。授業に先行して、よく読み自分で考える姿勢を継続してこそ力が付きます。予習で最も大切なことは、「わからないことは何かを明確にする」ことです。授業で疑問を解決しましょう。
- ② 予習→授業→復習(問題演習)学習サイクルを改めて定着させましょう。
- ③ 解けなかった問題は、答を導くための方針を解答で理解した上で、もう一度自分の力だけで解けるようになったかを確認します。途中の「計算」は解答に頼ってはいけません。手を動かして自分の体に馴染ませるようにすることが大事です。

5 副教材・参考書

副教材:「ⅠA+ⅡB標準 PLAN120」(数研出版)

参考書:「チャート式基礎からの数学Ⅰ+A」(数研出版)「チャート式基礎からの数学Ⅱ+B」(数研出版)

6 予習復習の実施

週4時間(2時間ずつ2回)で展開します。毎日の予・復習に加え、週単位でしっかり復習してください。

7 課題・補習について

詳しくは授業担当者の指示に従ってください。補習は、定期考査前や長期休業中を中心に様々なレベルで適切な時期に実施する予定です。積極的に参加してください。

8 評価の視点・考査について

評価は、年間計4回の定期考査を中心に総合的に判断します。

9 1年後の目標

初見の入試問題に対し、思考・分析・判断を継続することができるようになる。

大学入試の標準的な問題が解答できる能力を育てる。

授業計画：数学Ⅱ（共通テスト） 文系自由選択 （4単位）

期	月	考查	単元	授業内容	着眼点
一学期	4 ～ 5月	第一学期中間考查	「ⅠA＋ⅡB標準 PLAN120」	入試問題の演習と解説	各単元において、確認テスト・課題提出等を行い、演習内容の定着をはかる。
	5 ～ 7月	第一学期期末考查	「ⅠA＋ⅡB標準 PLAN120」	入試問題の演習と解説	時間を意識して解くことを心がける。
	8月	夏季休業			
二学期	7 ～ 10月	第二学期中間考查	「ⅠA＋ⅡB標準 PLAN120」	入試問題の演習と解説	時間を意識して解くことを心がける。
	10 ～ 12月	第二学期期末考查	「ⅠA＋ⅡB標準 PLAN120」	入試問題の演習と解説	時間を意識して解くことを心がける。
三学期	12 ～ 3月	学年末考查	入試直前演習	入試問題の演習と解説	過去問演習

数学Ⅱ(文系:記述)

単位数	4
担当者	数学科教員1名
教科書	数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B(数研出版)

1 講座のねらい

既習の「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」の範囲の問題を演習し、大学入試の標準的な問題が解答できる能力を育てる。

2 授業の内容と進め方

詳細については、次頁の授業計画を参考にしてください。この講座は、上記の範囲で基礎力の確認と記述力を養う授業を行います。夏季休業前までに数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの入試基本問題をひと通り学習し、7月からは、標準以上の大学入試問題の演習と解説を行います。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

学んだ内容は、自分で演習をしてみて初めて自分のものになります。問題文の何が鍵になるのか意識して絶えず自分で思考し、記述・論証する習慣をつけてください。安易に解答に頼る癖は封印します。また、黒板やノートで自分の解答を観てもらいましょう。他者からの評価をもらうことで、独りよがり克服しましょう。

4 学習する上での留意点

- ① 予習は必須です。授業に先行して、よく読み自分で考える姿勢を継続してこそ力が付きます。予習で最も大切なことは、「わからないことは何かを明確にする」ことです。授業で疑問を解決しましょう。
- ② 予習→授業→復習(問題演習)学習サイクルを改めて定着させましょう。
- ③ 夏季休業中には講習等で、入試基本問題演習で入試数学の土台を作りきることが大切です。
- ④ 解けなかった問題は、答を導くための方針を解答で理解した上で、もう一度自分の力だけで解けるようになったかを確認します。途中の「計算」は解答に頼ってはいけません。手を動かして自分の体に馴染ませるようにすることが大事です。

5 副教材・参考書

副教材「メジアン数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B」(数研出版)

6 予習復習の実施

数学Ⅱは週4時間で展開します。毎日の予習・復習に加え、週単位でしっかり再度復習してください。

7 課題・講習について

詳しくは授業担当者の指示に従ってください。

講習は、長期休業中を中心に様々なレベルで適切な時期に実施する予定です。

8 評価の視点・考查について

評価は、年間計4回の定期考查を中心に総合的に判断します。

9 1年後の目標

初見の入試問題に対し、思考・分析・判断を継続することができるようになる。

大学入試の標準的な問題が正解できるようになる。

授業計画：数学Ⅱ（記述） 文系自由選択 （4単位）

期	月	考查	単元	授業内容	着眼点
一 学 期	4 ～ 5 月	第一 学期 中間 考查	「メジアン数学演習 Ⅰ・Ⅱ・A・B」演習	2年次既習内容の確認と補足 入試問題の演習と解説	各単元において、確認テ スト・課題提出等を行い、 演習内容の定着をはか る。
	5 ～ 7 月	第一 学期 期末 考查	「メジアン数学演習 Ⅰ・A・Ⅱ・B」演習	入試問題の演習と課題	各単元において、確認テ スト・課題提出等を行い、 演習内容の定着をはか る。
	8 月	夏季休業 内容別・レベル別夏期講習			
二 学 期	7 ～ 10 月	第二 学期 中間 考查	「メジアン数学演習 Ⅰ・Ⅱ・A・B」演習	入試問題の演習と課題	各単元において、確認テ スト・課題提出等を行い、 演習内容の定着をはか る。
	10 ～ 12 月	第二 学期 期末 考查	入試問題演習	入試問題Ⅰ・A・Ⅱ・B総合問題 演習と解説	入試過去問題の取り組み。
三 学 期	12 ～ 3 月	学 年 末 考 査	入試問題演習	入試問題Ⅰ・A・Ⅱ・B総合問題 演習と解説	入試過去問題の取り組み。

単位数	4
教科書	物理（数研出版）

1 講座のねらい

物理は自然科学を学ぶ上での基礎になる学問です。将来、理工系の大学進学を目指す生徒を対象にしています。第2学年の物理で扱えなかった内容も含めて、力学、電磁気、原子・原子核と、より高度な物理現象について学習します。

2 授業の内容と進め方

〔一学期〕①円運動 ②万有引力 ③単振動 ④気体の法則 ⑤熱力学 ⑥電流回路 ⑦電場と電位 ⑧コンデンサー までを扱います。まず、第2学年で学習した力学全般の復習をしてから円運動、万有引力、単振動、熱力学、電流回路、電場、コンデンサーを学習します。

〔二学期〕①電流と磁場 ④電磁誘導と電磁波 ⑤原子と原子核 です。電磁気は、電場と電位、コンデンサー、電流が磁場から受ける力、ファラデーの電磁誘導の法則などを学習し、その応用である交流や電磁波、半導体までを学びます。さらに、原子と原子核で現代物理学の入門的な内容を扱います。

〔三学期〕特別編成授業を行い、受験対策の講座を開講します。

3 思考・判断・表現力の手立て

問題演習を通し知識、公式をどのように活用したら良いのか鍛えていきます。普段の授業の中で様々な考え方、解き方に触れ思考力 判断力 表現力を身に付けます。

4 学習する上での留意点

第3学年の授業は生徒実験よりも演示実験が多く、授業のスピードも速くなりますので、復習が重要です！基本事項・ポイントをその日のうちに確認し、問題を根底から理解するまで繰り返し解きましょう。ノートをきちんと用意し、授業プリントも貼るなり綴じるなりきちんと管理してください。

問題集の基本例題、基本問題（標準的な問題）を授業の進度に合わせて普段から地道に解くようにしましょう。発展例題・発展問題まで解き進めることができれば、受験に対応できる実力を養うことができます。

5 予習復習の実施

物理は復習および日ごろから地道に既習事項に関する問題を解き進めておくことが重要です。予習に関しては授業前に教科書に目を通す程度で良いでしょう。

6 副教材・参考書

「セミナー物理基礎＋物理」（第一学習社）

7 課題・補習について

実験後は必ずレポートを提出してください。また、問題集のレポート課題は必ず提出しましょう。

夏休みには、波動分野の復習と応用力養成のための講習を行います。

8 評価の視点・考査について

評価は考査点と平常点を組み合わせて総合的に行います。平常点は実験レポート、問題集のノート、授業態度等を点数化して算出します。

9 1年後の目標

自然現象を理論的に理解する能力、さらに大学受験に対応する能力が身につきます。

授業計画：物理（4単位）

期	月	考査	単元	授業内容	着眼点
一 学 期	4 ～ 5 月	第一 学期 中間 考査	円運動と万有引力	円運動 慣性力と遠心力 ケプラーの法則 万有引力 単振動	・向心力について理解する。 ・慣性系と非慣性系の違いについて理解する。 ・ケプラーの法則から万有引力の法則を導く過程を理解する。 ・復元力について理解する。
	5 ～ 7 月	第一 学期 期末 考査	気体のエネルギーと状態変化 電流回路	気体の法則 気体分子の運動 気体の状態変化 キルヒホッフの法則 直流回路 半導体 ダイオード	・理想気体の状態方程式について学ぶ。 ・気体の性質を分子運動の観点から理解する。 ・熱力学第1法則の復習。 ・理想気体の内部エネルギーとモル比熱について理解する。 ・電流保存則の理解。 ・電位降下とキルヒホッフ第2法則の意味を理解する。 ・半導体の性質と半導体ダイオードのしくみを理解する。
	8 月	夏季休業			
二 学 期	7 ～ 10 月	第二 学期 中間 考査	電場 電流と磁場 電磁誘導	コンデンサー 電流がつくる磁場 電流が磁場から受ける力 電磁誘導の法則	・コンデンサーの構造、電気容量および静電エネルギーについて学ぶ。 ・コンデンサーを含む直流回路について理解する。 ・電流がつくる磁場を学ぶ。 ・電流が磁場から受ける力を学ぶ。 ・誘導起電力について学ぶ。 ・荷電粒子の運動を考える。
	10 ～ 12 月	第二 学期 期末 考査	交流と電磁波 電子と光 原子と原子核	交流と電磁波 原子と原子核	・交流の発生原理、および交流回路の特徴を理解し、直流と交流の違いを知る。 ・電磁波の伝わり方を理解する。 ・原子や原子核の構造や性質について学ぶ。
三 学 期	12 ～ 3 月	学 年 末 考査	特別編成授業	過去問分析	・入試問題を題材にして実践的な実力を養成する。

物理【演習】

理系必修選択

単位数	2
教科書	物理（数研出版）

1 講座のねらい

第1学年で学習した物理基礎、第2学年から学習している物理の内容の問題演習を通して、センター試験や国公立2次・私大受験の入学試験に対応できる学力の養成を目指します。

2 授業の内容と進め方

〔1学期〕第1, 2学年で学んだ力学や波の復習をし、「セミナー物理基礎＋物理」問題集を用いて、基本からやや高度な問題までを含めた問題の演習を行います。

円運動、単振動、万有引力、電流回路など、第3学年で学習する内容の演習も授業と並行しながら行います。

〔2学期〕電流、電磁気、熱力学、原子・原子核など第3学年で学習する内容の問題演習を「セミナー物理基礎＋物理」問題集を用いて、授業と並行しながらすすめていきます。

〔3学期〕特別編成の講座を開講し、過去に出題された大学入試問題の解説を行います。事前に教材を配布し、予習を前提に授業をすすめていきます。

3 思考・判断力、表現力の手立て

基本問題への取り組みを通じて公式確認を行うと同時に導出の練習を繰り返し行うことで公式への理解を深めます。また、標準～発展的な記述問題への取り組みを通して思考・判断力とともに表現力を養います。

4 学習する上での留意点

物理を理解するためには力学の知識をしっかりと身につける必要があります。運動方程式、運動量保存、力学的エネルギー保存が力学の3本柱です。春休み中の課題を通してしっかり予習しておきましょう。物理の実力を養成するには演習問題をできるだけ自力で解くことが重要です。問題集「セミナー物理基礎＋物理」を積極的に活用しましょう。例年、問題集に地道に取り組んだ生徒が後半に学力を大きく伸ばしています。定期的に出される問題集の課題にもしっかり取り組みましょう。努力の結果は必ず自分に返ってきます。怠りなく！

5 予習復習の実施

予め提示された問題については、なるべく事前に解き進めておきましょう。演習の時間に自分の力で解けなかったところを理解するように心がけましょう。

6 副教材・参考書

「セミナー物理基礎＋物理」（第一学習社）

7 課題・補習について

夏休みには基礎力確認と応用力養成のための講習を予定しています。

8 評価の視点・考査について

物理（4単位）の定期考査の成績によって判断します。

9 1年後の目標

大学受験に対応するために必要な能力を身に付ける。

授業計画：物理【演習】（2単位） 理系必修選択

期	月	考査	単元	授業内容	着眼点
一 学 期	4 ～ 5 月	第一 学期 中間 考査	運動量 円運動と万有引力	力積と運動量の演習 円運動の演習 慣性力と遠心力の演習	物理量の定義、公式の意味を再確認 しながら公式の使い方を練習する。
	5 ～ 7 月	第一 学期 期末 考査	円運動と万有引力 熱と物質の状態 電場	単振動の演習 熱力学の演習 直流回路の演習	物理量の定義、公式の意味を再確認 しながら公式の使い方を練習する。
	8 月	夏季休業			
二 学 期	7 ～ 10 月	第二 学期 中間 考査	電流と磁場 電磁誘導	コンデンサーの演習 電流磁場、電磁力、電磁誘導 に関する演習	物理量の定義、公式の意味を再確認 しながら公式の使い方を練習する。
	10 ～ 12 月	第二 学期 期末 考査	電磁誘導 交流と電磁波 原子と原子核	交流回路の演習 半導体の演習 原子と原子核の演習	物理量の定義、公式の意味を再確認 しながら公式の使い方を練習する。
三 学 期	12 ～ 3 月	学 年 末 考査	特別編成授業	過去問分析	入試問題を題材にして実践的な実力を 養成する。

化 学	理系選択 (4 単位)	単位数	4
		教科書	化学 改訂版 (啓林館)

1 講座のねらい

- ① 身の回りの物質・事象を科学的に捉え、数理的・論理的に説明する思考力および応用力を養う。
- ② 現代社会における化学の役割を理解する。
- ③ 大学入試問題に対応できる実践力を身につける。

2 授業の内容と進め方

講義に加え、実験実習を行います。4単位では授業進度を保つため、授業内での演習は厳選したものだけを扱います(2単位は演習を通して実践的な力を養います)。そのため、授業の内容理解を高めるために、各自で問題演習を日々行うことが必要不可欠です。とにかく、復習により重点をおき、各自で演習量を増やすこと。2年次までの授業内容が身につけていなければ習得しづらい内容のため。授業の復習と2年次までの復習をバランスよく行って下さい。

11月中にすべての範囲を履修し終え、その後は大学入試問題等を中心に演習を行います。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

普段の授業内での問いかけや演習を通して身につけていきます。自ら積極的に考え取り組むこと。特に実験はこれらの力を総合的に養うチャンスです。実験後のレポート提出のなかで多角的に考察をすることで、さらにこれらの力を高めることができます。

4 学習する上での留意点

単位数が4単位と1・2年生の2倍になり、また理系の選択者対象のみが授業を受けます。授業スピードが速くなるため、週に学ぶ量は相当な量となります。授業で学んだことをすぐに復習すること、かつ演習量を増やして早いうちに定着させることが肝心です。復習はその日のうちに行い、根本から理解するまで繰り返し問題を解きましょう。また、決して授業内の演習だけで満足しないこと。いかに自力で新しい問題を解くかが大事です。なお、授業プリントを整理できるファイル、演習用のノートを用意して下さい。

5 予習復習の実施

予習は、教科書や資料集を読んで内容を把握し、余裕があれば問題集の基礎的な問題に取り組むなどしてください。重要なのは復習です。授業プリントや教科書を振り返り既習事項を確認したら、授業内で扱った問題に加え、教科書や問題集の問題に取り組みましょう。これをなるべく授業から数日内で行います。

6 副教材・参考書

「スクエア最新図説化学」(第一学習社) 【継続】より理解を深めるための資料
「セミナー化学基礎+化学」(第一学習社) 【継続】定期考査・受験用の演習および課題
「ビーライン 化学」(数研出版) 定期考査・受験用の演習および課題
「フォローアップドリル化学」有機化合物(数研出版) 事項の確認および課題
「フォローアップ化学」無機物質 高分子化合物(数研出版) 事項の確認および課題
「化学頻出 スタンダード問題集」(駿台文庫) 基本事項の定着後に取り組む受験対策用

7 課題・補習について

実験ごとに実験レポートの提出と、定期考査問題集等の課題提出が定期的にあります。また、夏季休業中に入試対策の講習を行います。

8 評価の視点・考査について

定期考査に平常点を加味して評価を行います。平常点には小テストのほか、実験のレポートや課題等の提出状況および、実験・授業での取り組みも含めます。

9 1年後の目標

分野に偏ることなく、全範囲を理解し、大学への学習につなげる。

授業計画：化学

(4 単位)

期	月	考查	単元	授業内容	着眼点
一 学 期	4 ～ 5 月	第一 学期 中間 考查	第2部 物質の変化と 平衡 (未習部分) 第3部 無機物質	第4章 化学平衡 第1章 周期表と元素の 分類 第2章 非金属元素	平衡定数、電離平衡、溶解平衡を理解する。 元素の周期律と各族の特徴を関連づけながら身につける。 非金属元素の単体と化合物の特徴と製法を身につける。
	5 ～ 7 月	第一 学期 期末 考查	第3部 無機物質 第4部 有機化合物	第3章 典型金属元素 第4章 遷移元素 第5章 生活と無機物質 第1章 有機化合物の特 徴と構造 第2章 脂肪族炭化水素	典型金属元素の単体と化合物の特徴と製法を身につける。 遷移元素の単体と化合物の特徴と製法を身につける。 金属イオンの定性分析を理解し、身につける。金属の精錬・利用、セラミックスの利用について学ぶ。 有機化合物の特徴と構造を整理し、身につける。 化学式決定の方法を身につける。飽和炭化水素・不飽和炭化水素について学ぶ。
	8 月	夏季休業			
二 学 期	7 ～ 10 月	第二 学期 中間 考查	第4部 有機化合物 第5部 高分子化合物	第3章 酸素を含む脂肪 族化合物 第4章 芳香族化合物 第5章 生活と有機化合 物 第1章 天然高分子化合 物	アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル、油脂、セッケンについて学ぶ。 芳香族炭化水素、酸素や窒素を含む芳香族化合物について学ぶ。 界面活性剤など身の回りの製品の化学的役割を学ぶ。 高分子化合物の構造を学ぶ。
	10 ～ 12 月	第二 学期 期末 考查	第5部 高分子化合物 総合問題演習	第2章 合成高分子化合 物 第3章 生活と高分子化 合物	合成樹脂・合成繊維について製品と関連づけて理解する。天然繊維・ゴム、核酸の構造と働きを学ぶ。 糖とデンプン・セルロース、アミノ酸とタンパク質を関連づけて理解する。 機能性高分子化合物、合成ゴムの構造と働きを学ぶ。
三 学 期	1 2 ～ 3 月		特別編成授業		

化学【演習】	理系必修選択（2単位）	単位数	2
		教科書	化学 改訂版（啓林館）

1 講座のねらい

化学（化学基礎分野も含む）の演習を通して、共通テストや国公立2次・私大の入試に対応できる力をつけるのが目的です。

2 授業の内容と進め方

「ビーライン 化学」（数研出版）、「セミナー化学基礎＋化学」（第一学習社）を中心に演習を行います。習熟度別に適した問題を課し、全範囲に関して演習を行うことで自身の力を底上げし、総合力を身につけていきます。あらかじめ問題を指定し各自で予習を行います。授業ではその問題の解説・補足をし、新たに類題や入試問題を解きます。

教科書の学習内容が終了した後は、「化学頻出 スタンダード問題集」も演習を行います。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

問題への取り組みを通じて基本事項の確認を行うと同時に、発展的な問題を通して、力を養います。実験に関する問題や・記述問題への取り組みを通して思考・判断力とともに表現力を養います。

4 学習する上での留意点

演習用のノートを用意し、あらかじめ指定された問題は必ず解いてきてください。予習が重要な授業です。未知の問題を自力で解けるようにすること＝アウトプットが目的です。予習で分からない問題に出会ったとき、ほんの少しでも答えに近づこうといかに頭を悩ませたか、またどのような解答が得点につながっていくのかをいかに意識するか、など、意識して取り組むことでこの演習の効果は大きく変わります。目的意識をもって能動的に学習してください。

また、「セミナー化学基礎＋化学」（第一学習社）に関しては、授業内で扱う問題は発展が中心となります。基本問題に関しては授業の進度に合わせて自身で考えて取り組んでください。

5 予習復習の実施

問題を指定するので毎回事前に解いてきてください。予習の段階で採点されることを意識した解答を作り、分かったところと分からないところを明確にしておくこと。授業前に予習した問題を見直すのがおすすめです。復習では自分の力で解けなかったところを完全に理解するように心がけましょう。科学的な現象には理由があります。理由のない丸暗記はしないこと。

6 副教材・参考書

「スクエア最新図説化学」（第一学習社）【継続】より理解を深めるための資料
「セミナー化学基礎＋化学」（第一学習社）【継続】定期考査・受験用の演習および課題
「ビーライン 化学」（数研出版）定期考査・受験用の演習および課題
「新リピートノート化学」有機化合物（浜島書店） 事項の確認および課題
「フォローアップ化学」無機物質 高分子化合物（数研出版） 事項の確認および課題
「化学頻出 スタンダード問題集」（駿台文庫） 基本事項の定着後に取り組む受験対策用

7 課題・補習について

問題集等の課題提出（専用のノートで行う）が定期的にあります。夏季休業中に入試対策の講習を行う予定です。

8 評価の視点・考査について

定期考査に平常点を加味して評価を行います。平常点には小テストのほか、課題等の提出状況および授業での取り組みを含めます。

9 1年後の目標

大学受験に対応するために必要な能力を身に付ける。

授業計画：化学【演習】 理系必修選択 (2 単位)

期	月	考查	単元	授業内容	着眼点
一学期	4 ～ 5月		物質の構成	物質の構成・周期表・化学結合・物質質量	物質の構成や変化について再確認し、実践力を養う。
			物質の変化	酸塩基・酸化還元	物質の変化について再確認し、実践力を養う。
			物質の状態	物質の三態変化 気体・溶液の性質	三態変化を理解し、溶液・気体の性質について深く考える。 (大学入試問題演習・模試に向けて演習)
	5 ～ 7月	第一学期期末考查	物質の変化と平衡	物質の変化と熱電池・電気分解 化学反応の速さ・平衡	化学変化におけるエネルギーに注目し、電池・電気分解、反応速度、平衡について数値的に学び理解する。 (大学入試問題演習・模試に向けて演習)
	8月	夏季休業			
二学期	7 ～ 10月		有機化合物	有機化合物の特徴 有機化合物の分類	有機化合物について体系的に学んだ知識を実践的に使えるようにする。 有機化合物の性質を官能基に注目してとらえ、脂肪族・芳香族化合物の分類や推定を行う。
			無機化合物	非金属元素、典型金属元素、遷移元素の単体と化合物、分離	無機物質の性質や製法についての知識を、実践的に用いて理解する。 (大学入試問題演習・模試に向けて演習)
	10 ～ 12月	第二学期期末考查	高分子化合物 総合問題演習	糖類・アミノ酸・タンパク質、核酸、合成樹脂・ゴム、合成繊維・天然繊維	高分子について、単量体からの合成について考え、身近な物質の性質に関連づけて身につける。 (大学入試問題演習・模試に向けて演習)
三学期	12 ～ 3月	学年末考查	特別編成授業		

単位数	2
教科書	化学基礎(第一学習社)

1 講座のねらい

この講座は、共通テストや一般選抜における看護医療系、栄養系など、化学基礎受験の生徒で、大学受験に対応できる実力を養成するのがねらいです。

2 授業の内容と進め方

基本的内容を確認する講義と問題演習が中心で、必要に応じて、テストを行う予定です。内容は、前期が物質の構成、後半が物質の変化を学習していきます。化学基礎の基本的内容を復習しながら、共通テストレベルまでの事項の学習と演習を中心に行います。後半には、共通テスト形式の実践演習を行います。

3 思考・判断・表現力を培う手立て

実験、実習を適宜取り入れ、化学的なものの見方を身につけます。さらに、小テストや演習を定期的に行いながら力をつけていきます。入試問題に対応した初見の問題も、演習の中に多く取り入れていきます。

4 学習する上での留意点

2単位の授業時間で大学入試に対応できる力を定着させるには、基本事項の整理や計算問題のポイントなどの復習が必要です。共通テストは教科書の内容を中心とした問題が多く、そのため基礎をしっかりと固めておく必要があります。「ある程度わかる。」や「だいたい理解している。」といったあやふやな状態ではなく、内容を正確に把握し、論理的に判断した上で、正解にたどりつける能力を身に付けることが大切です。そのためには、授業で学習した内容を、その日のうちに教科書や参考書等で確認し、関連事項をまとめ、類題を解く学習を心がけると良いでしょう。

5 予習復習の実施

基本的には一年次の復習なので、毎回、宿題を出す予定です。具体的には、与えられた課題や問題集をあらかじめ解いてくることです。理解している問題とそうでない問題を明確にしながら学習を積み重ねていくことが、入試までに大切なことです。

6 副教材・参考書

「つかむセンター化学基礎」（浜島書店）「スクエア 最新図説化学」（第一学習社）【継続】
「セミナー化学基礎＋化学」（第一学習社）【継続】

7 課題・講習・補習

一年次の復習と演習なので、授業中に全てを網羅できるように学習をしていきます。繰り返しになりますが、課題は毎回出す予定です。自分の苦手分野を明確にし、入試までに克服しましょう。

8 評価の視点・考査について

授業での理解度、課題の提出の状況および定期考査等の結果を中心に行います。

9 一年後の目標

化学基礎の内容を、全範囲網羅し苦手分野をなくす。共通テストで7割以上の得点を目指す。

授業計画：化学基礎 文理共通自由選択（2単位）

期	月	考查	単元	授業内容	着眼点
一学期	4 ～ 5月	第一学期 中間 考查	物質の構成	物質の基本構成 化学結合 物質と化学反応式	元素・原子・分子・イオンの概念を確認 物質に関連した計算の復習
			物質の構成 物質の変化	化学反応式と量的関係 酸と塩基	反応式の作成と量的関係の復習 酸・塩基の定義、代表的な物質 pH・中和反応と中和滴定、量的関係、塩の復習
一学期	5 ～ 7月	第一学期 期末 考查	物質の変化	酸化還元反応 イオン化傾向と電池	酸化還元の定義と酸化数の計算 酸化還元反応と量的関係 イオン化傾向とそれに関わる反応式 電池の仕組みと反応
			物質について	身近な物質	身近な物質とその性質
	8月	夏季休業			
二学期	7 ～ 10月	第二学期 中間 考查	総合問題		大学入試過去問・大学入試実戦問題
			総合問題		大学入試過去問・大学入試実戦問題
三学期	12 ～ 3月				

生物	理系選択（4単位）	単位数	4単位
		教科書	高等学校 生物（第一学習社）

1 講座のねらい

この講座は、生物系、農学系、看護医療系、化学系などに進学を希望する生徒、および理系で生物に興味をもつ生徒を対象とする。さまざまな生物現象について学び、生物学的なものの見方を養成することがねらいである。

2 授業の内容と進め方

生物の細胞と分子、代謝、遺伝情報の発現、生態と環境について学ぶ。また終了後は大学入試を意識した演習を行う。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

さまざまな生物現象について、表面的に学ぶだけではなく、それらの現象のおきるしくみやそこから派生する問題について思考を深め、それらを議論することを通じて思考力や判断力を学ぶ。また、それらを文章化したり、他者に説明することで表現力を磨く。

4 学習する上での留意点

授業に積極的に参加し、自らが考える姿勢をもたないと学力は向上しない。実験観察を含めて授業に意欲的に取り組んでほしい。

5 予習復習の実施

基本的には予習は求めない。学習を進めながら、自らの力で課題を見つけ、それを解決するように努めてほしい。重要な課題については、問題演習を通じて復習をし、習熟してほしい。

6 副教材・参考書

これまで使ってきた副教材「スクエア 最新図説生物」を継続して使用する。問題集の指定はないが、これまで使ってきたセミナーが復習の指針となる。

7 課題・補習について

授業中に全てを理解することを目指す。長期休業中には講習も行う予定なので、それを利用して理解の確認をするとよい。

8 評価の視点・考査について

定期考査の結果と授業に参加する態度、提出物の状況に応じて評価する。

9 1年後の目標

生物の授業内容を身につけ、自己の進路を実現しよう。

授業計画：生物 理系選択 （4単位）

期	月	考查	単元	授業内容	着眼点
一 学 期	4 ～ 5 月	第一 学期 中間 考查	第1編 生命現象と物質 第1章 細胞と分子	細胞を構成する物質 タンパク質の構造 細胞小器官の働き 細胞膜の構造 物質の透過性 酵素の構造と働き 受容体 抗体の構造と働き	細胞を構成する物質を理解する タンパク質の構造を理解する 立体構造と働きを理解する 細胞小器官の働きを理解する 細胞膜の構造を理解する 受動輸送と能動輸送について理解する 酵素の働く条件を理解する 酵素反応の阻害について理解する 受容体の特徴と働きを理解する 抗体の特異性と構造の関係を理解する
	5 ～ 7 月	第一 学期 期末 考查	第2章 代謝	葉緑体の構造 光合成色素の働き チラコイドの反応 ストロマの反応 窒素同化と窒素固定 発酵の過程 解糖系とクエン酸回路 電子伝達系 呼吸基質と呼吸商	ATPの働きを確認する 光合成と葉緑体の関係を理解する 光化学系の働きを化学的に理解する カルビンベンソン回路を化学的に理解する C3回路とC4回路の存在意義を考察する 窒素の同化過程を理解する アルコール発酵の過程を理解する 解糖系クエン酸回路の過程を理解する 電子伝達系のATP合成を理解する 呼吸商の計算方法を学ぶ
	8 月	夏季休業			
二 学 期	9 ～ 10 月	第二 学期 中間 考查	第3章 遺伝情報の発現	DNAの構造 半保存的複製 転写のしくみ 翻訳のしくみ 突然変異のしくみ 調節タンパク質 PCR法 塩基配列の決定 遺伝子の組換え	半保存的複製の証明実験を考察する DNAの複製過程を理解する 転写とスプライシングを理解する 翻訳の詳しいしくみを理解する 塩基配列変化の影響を考察する 調節タンパク質の働きを理解する 遺伝子の増幅方法を理解する 塩基配列の決定方法を理解する 制限酵素・ベクターの働きを理解する 遺伝子組換えの意義を理解する
	10 ～ 12 月	第二 学期 期末 考查	第4編 生態と環境 第6章 生物群集と生態系	個体群の特徴 同種個体間の関係 異種個体群間の関係 生態系の物質生産 炭素・窒素の循環 エネルギーの移動 生物多様性の捉え方 多様性保全の意義	個体群の成長について理解する 同種個体同士の関係を理解する 異種個体群間の関係を理解する 物質生産と「物質の流れを理解する 炭素・窒素の循環を理解する 生態系内のエネルギーの流れがわかる 人間生活の生態系への影響を考察する 生物多様性を保全する方法を考察する
三 学 期	1 2 ～ 3 月		特別編成授業		大学入試過去問 大学入試実戦問題

生物【演習】	理系必修選択（2単位）	単位数	2
		教科書	生物(第一学習社)

1 講座のねらい

この講座は、受験科目として生物を使用する予定の人（医療・看護系、理学系、農学系、化学系、家政系など）を対象としている。主に演習を行って、大学入試問題の得点力をアップさせることがねらいである。

2 授業の内容と進め方

生物基礎を含めて、1・2学年で学んだ生物の内容の復習や3学年で学ぶ生物の演習を行う。夏休み前までは主に生物基礎を扱う。問題集の演習を行いながら、学習内容の復習をする。大学入試の過去問の演習を行い、入学試験の得点力を養う。

3 思考力 判断力 表現力の手立て

入試問題では、これまで学んだ知識を駆使しながら、それらを総合して思考し、判断することが求められる。また、それを答案として表現することが求められる。問題演習を通じてそれらの育成を行う。

4 学習する上での留意点

教科書の内容全般の復習を行う。特に注意すべき題材については重点的に扱い、得点力の向上を図る。授業に積極的に参加し、授業後にその内容を復習することが求められる。

5 予習復習の実施

演習内容については事前に知らせるので、なるべく予習して授業に臨み、疑問点をチェックしておく。疑問点は授業中に解決するようにする。間違えた問題はチェックし、必ず復習して同じ間違いを繰り返さないようにする。

6 副教材・参考書

問題集等は1・2学年で使用したものを使う。

問題集「セミナー生物基礎」「セミナー生物」

図説「スクエア 最新図説生物」（第一学習社）

図説については、常に携行し見るようにすると、学習に対する興味が増す

7 課題・補習について

特別な課題は課さない。

夏季休業中等に補習を行う予定。

8 評価の視点・考査について

4単位生物と合わせて評価し、単独での評価は行わない。

評価の参考として確認テストを行う。

定期考査は行わない。

9 1年後の目標

各自が目標とする進路を実現する。

授業計画：生物【演習】理系必修選択

(2単位)

期	月	考査	単元	授業内容	着眼点
一学期	4 ～ 5月		生物の特徴 遺伝子とその働き	生物基礎の知識確認 問題演習 計算演習	実験や資料の分析の仕方を学ぶ 細胞の相違点の確認 細胞周期の確認と計算演習 DNAに関する知識の確認をする DNAやタンパク質の計算演習
	6 ～ 7月	確認テスト	生物の体内環境 植生の多様性	生物基礎の知識確認 問題演習 計算演習	体液に関する知識の確認 体液や腎臓の計算問題演習 免疫に関する知識確認 遷移やバイオームの知識確認 表やグラフの読み取り演習
	8月	夏季休業			
二学期	9 ～ 10月		細胞と分子 同化・異化 有性生殖 遺伝の法則 動物の発生 植物の発生 植物の環境応答 動物の反応と行動	基礎知識の確認 問題演習 計算演習	呼吸や光合成に関する知識確認 呼吸商の計算演習 代謝に関わる計算演習 動物の受精と発生に関する知識確認 発生のしくみに関する実験考察 植物の受精過程の確認 屈性・花芽形成の実験考察 動物の受容器・神経系の知識確認 動物の反応に関する実験考察
	11 ～ 12月	確認テスト	DNAの構造 遺伝情報の発現 生態と環境 生物の進化 生物の系統	基礎知識の確認 問題演習 計算演習	半保存的複製の実験考察 遺伝子のゲノムの関係の確認 遺伝情報の発現に関わる知識の確認 生態系に関する計算演習 進化の知識を確認する 分子時計、分子系統樹の計算演習
三学期	1 ～ 3月		特別編成授業	看護受験対策 センター試験対策 私立大学対策 国公立二次対策	大学入試過去問 大学入試実戦問題

6 保健体育

保健体育（体育）

単位数	3 学年（3）
教科書	保健体育（大修館）

1 講座のねらい

運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、計画的に運動に親しむ能力を身に付けます。また、各種の運動を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、生涯を通じて継続的に運動ができる能力を育てます。

2 授業の内容と進め方

3 年生は種目を選択し、自分たちで授業計画を立てて実施します。今年度はグラウンド改修工事に伴い、内容が変更になる場合もあります。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

生徒自ら主体的に授業に取り組むよう協調しあい目的を設定し、知識や技能においても互いに指摘しあい、リーダーシップを発揮できる生徒の養成をする。

4 学習する上での留意点

自己の体力を理解し、自らの健康を適切に管理・改善し、常に体調を整えて授業に臨むこと。また、個人及び集団生活における健康・安全についても理解を深め、公正・協力・責任などの態度を身に付けましょう。特に水泳・持久走の授業では、自己の能力に応じた課題（記録）を設定し、その課題（記録）を自ら解決（更新）できるように心掛けましょう。

5 予習復習の実施

体育授業時の怪我防止のためにも、常に健康管理に努め、高い目的意識をもって授業に臨みましょう。

6 副教材・参考書

特にありません

7 課題・補習について

怪我や病気等で欠席や見学をして体育科規定の授業時数に参加できていない生徒に対しては補習をおこなったりレポートを課したりします。

8 評価の視点・考査について

それぞれの授業（種目）ごとに実技試験を行います。実践教科であるため授業は、積極的に参加することが原則です。身体を動かし、筋力・敏捷性・柔軟性・持久力を高めるとともに、仲間と協力しあい、自分の課題（記録）にチャレンジすることが大切です。

9 1年後の目標

運動技能を高めるのは勿論、運動の楽しさ、集団での協力、互いのコミュニケーションを図り、人間的な成長を育成します。

授業計画： 体育 （3単位）

期	月	単元	授業内容	着眼点
一 学 期	4 ～ 5 月	体づくり運動 種目選択	楽しさや心地よさを味わう運動 グループ学習（球技）	体の構造、運動の原則の理解 健康保持増進や体力向上 生徒自身での授業計画・実施
	5 ～ 7 月	種目選択 水泳	グループ学習（球技） 水中運動	生徒自身での授業計画・実施 陸上と水中の運動の違い
	8 月	夏季休業		
二 学 期	7 ～ 10 月	水泳 種目選択	水中運動 グループ学習（球技）	陸上と水中の運動の違い 生徒自身での授業計画・実施
	10 ～ 12 月	種目選択	グループ学習（球技）	生徒自身での授業計画・実施

コミュニケーション英語Ⅲ (4単位)

単位数	4
担当者	英語教員 3名
教科書	LANDMARK English Communication III

1 講座のねらい

1, 2年次に習得した語彙、文法・語法をもとに、大学入学共通テスト出題レベルの英文を読み、内容を正しくかつ迅速に理解する力を身に付ける。

2 授業の内容と進め方

教科書を用いて、500～600語程度の英文を読み、内容を把握する。英問英答等で理解度を確認する。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

- ①辞書なしで英文を読み通して大意をつかみ、未知語や表現の意味を推測できるようにする。
- ②辞書を使う際は、文脈や文中での語法を考慮しながら、適切な意味、訳語を選択する。
- ③読んだ内容について、英語で要約する、意見を言うなどの表現力を養う。

4 学習する上での留意点

内容の概要を大まかに把握したうえで、語彙、文法、文構造等の詳細へと各自で段階的に学習していくよう努める。

5 予習復習の実施

予習：①辞書なしで大意を推測 ②辞書を活用して文脈を把握 ③単語・熟語の確認等
 復習：授業では内容理解を中心とするため、語彙、文法、文構造等の詳細な点においては各自での復習が必要である。

6 副教材・参考書

Cutting Edge Blue (EMILE)

大学入試共通テスト 英語（リスニング）対策 Reach30 (美誠社)

大学入試共通テスト 英語（リーディング）対策 Reach40 (美誠社)

共通テストドリル 英語リーディング 10 minutes(Z-KAI)

7 課題・補習について

内容把握問題を適宜実施する。大学受験対策として長期休業中に講習を実施する。

8 評価の視点・考査について

- ①定期考査は100点満点。
- ②考査得点、小テスト等を評価対象とする。

9 1年後の目標

教科書レベルの英文を辞書を用いずに理解、分析、表現することができる。

授業計画：

(4 単位)

期	月	考查	単元	授業内容	着眼点
一 学 期	4 ～ 5 月	第 一 学 期 中 間 考 査	Lesson 1 Caffeine: The World's Favorite Drug Lesson 2 Blood Is Blood Lesson 3 Australia and its Creatures	・カフェインによる健康被害の可能性について理解する。 ・当時の黒人差別の実態を理解する。 ・黒人差別と闘うドルーの主張を理解する。 ・厳しい気候に生きる動物たちの習性について理解する。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。 言語の背景にある文化を理解する。
	5 ～ 7 月	第 一 学 期 期 末 考 査	Lesson 4 The \$100,000 Salt and Pepper Shaker Lesson 5 Bilingual Effects in the Brain Lesson 6 Communication without Words	・店員の行動が遊園地に多大な利益をもたらすことになったことを理解する。 ・バイリンガルの人には脳の構造が違うという論文の内容を理解する。 ・コミュニケーションの7割をボディランゲージが占めることを理解する。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。 言語の背景にある文化を理解する。
	8 月	夏季休業			
二 学 期	7 ～ 10 月	第 二 学 期 中 間 考 査	Lesson 7 Political Correctness Lesson 8 Animal Math Lesson 9 The Story of My Life	・差別や偏見のない用語を使うことが推奨されていることを理解する。 ・動物には生来、数学的な能力が備わっていることを理解する。 ・サリバン先生の教育方法について理解する。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。 言語の背景にある文化を理解する。
	10 ～ 12 月	第 二 学 期 期 末 考 査	Lesson 10 Extinction of Languages Lesson 11 Learning a First Culture Lesson 12 Light Pollution	・世界で半数の言語が消滅の危機にさらされていることを理解する。 ・子どもたちは大人との接触によって社会性を身につけることを理解する。 ・人間は夜も活動できるように人工の光を生み出してきたことを理解する。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。 言語の背景にある文化を理解する。
三 学 期	12 ～ 3 月	学 年 末 考 査	共通テスト対策	・共通テスト対策として、テストの形式、リスニング対策などを行う。	形式に慣れる。

1 講座のねらい

二年次までに学習した内容から、さらに発展的な語彙、語法を習得し、実際の会話や英作文に役立てる。

2 授業の内容と進め方

一週間に二時間学習し、二単位を履修する。
習熟度に応じてクラスが分かれる。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

- ① 英文を正しく言え、書けるようにする。一、二年次に学習し身につけた文法事項を踏まえ、場面や状況に応じた使い方を考える。
- ② 英文を単に丸暗記するのではなく、なぜその語を用いるのか、なぜそのような語順になるのかなど、英文法を理解する。

4 学習する上での留意点

- ① 英文法を理解した上で、場面に応じ、英文を正しく用い、話したり書いたりすることができるようにする。
- ② 問題演習を通じて、学習した内容が「わかる」から「できる」ようになったことを確認し、英語の汎用性を高める。

5 予習復習の実施

予習：既習の文法・語法知識を確認しながら問題を解く。
復習：間違えた問題に再度取り組む。

6 副教材・参考書

『Next Stage 英文法語法 4th edition』 桐原書店
『ブレイクスルーファイナルステージ英文法語法完成問題』 美誠社
『Next Stage 英文法語法問題 Winning Spirit』 桐原書店

7 課題・補習について

適宜指示する。

8 評価の視点・考査について

定期考査、小テスト、提出物等をもとに総合的に判断する。

9 1年後の目標

自分の意見や考えが、自由に英語で表現できるようになることを目指す。

授業計画：英語表現Ⅱ（2単位）

期	月	考查	単元	授業内容	着眼点
一学期	4 ～ 5月	第一学期中間考查	*ブレイクスルー 第1～6章 *Vision Quest	・和文英訳・英作文の問題演習 ・文法・語法の問題演習	・文法・語法の基礎力を固める。
	5 ～ 7月	第一学期期末考查	*ブレイクスルー 第7～12章 *Vision Quest	・和文英訳・英作文の問題演習 ・文法・語法の問題演習	・文法・語法の基礎力を固める。
	8月	夏季休業			
二学期	9 ～ 10月	第二学期中間考查	*ブレイクスルー 第13～21章 *Vision Quest	・和文英訳・英作文の問題演習 ・文法・語法の問題演習	・文法・語法問題の演習で応用力を身につける。
	10 ～ 12月	第二学期期末考查	*Next Stage 第1～10回 *Vision Quest	・和文英訳・英作文の問題演習 ・文法・語法の問題演習	・ランダム配列の発展問題で実践力を身につける
三学期	12 ～ 3月	学年末考查	*Next Stage 第11～17回 *入試問題演習	・和文英訳・英作文の問題演習 ・文法・語法の問題演習 ・大学入試過去問題演習	・ランダム配列の発展問題で実践力を身につける ・入試過去問題に実践的に取り組む。

リーディング演習 文理共通自由選択

単位数	2
教科書	LANDMARK English Communication III

1 講座のねらい

読解力、表現力を養い、入試問題に対応できるための力をつける。

2 授業の内容と進め方

一週間に一回、二時間連続で受講し、二単位を習得する。
二時間のうち、読解、英作文をそれぞれ一時間ずつ学習する。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

- ①辞書なしで英文を読み通して大意をつかみ、未知語や表現の意味を推測できるようにする。
- ②最新のテーマに対して「どう考えるか」を念頭に置き、英作文を英語の発想で書けるようにする。

4 学習する上での留意点

既習の英文法を復習しながら、英文を理解し、英語で表現できるよう段階的に学習していく。

5 予習復習の実施

予習：長文問題演習：辞書なしで大意を推測し、設問に取り組む。

英作文：文法事項の解説を読み、設問に取り組む

復習：授業での解説を踏まえ、解き直し、確実に理解する。語彙、文法、文構造等を各自で復習する。

6 副教材・参考書

『英語長文演習シリーズ SWITCH 5』（文英堂）

『自分の力で書く大学入試英作文 FINAL DRAFT』（いづな書店）

7 課題・補習について

適宜指示する。

8 評価の視点・考査について

定期考査、提出物等をもとに総合的に判断する。

9 1年後の目標

大学入試レベルの長文読解力を身につけ、将来的にさまざまな英文を読みこなす基礎を築く。

授業計画： リーディング演習 （2単位）

期	月	考査	単元	授業内容	着眼点
一学期	4 ～ 5月	第一学期中間考査	*英語長文演習 Unit 1~4 *FINAL DRAFT Lesson 1~4	・様々な分野の英文を読み解く。 ・テーマに沿って英文を書く。	・英文を読み、情報や考えなどを的確に理解する。 ・テーマのポイントを踏まえ、正しい文法にしたがって英文を書く。
	5 ～ 7月	第一学期期末考査	*英語長文演習 Unit 5~9 *FINAL DRAFT Lesson 5~9	・様々な分野の英文を読み解く。 ・テーマに沿って英文を書く。	・英文を読み、情報や考えなどを的確に理解する。 ・テーマのポイントを踏まえ、正しい文法にしたがって英文を書く。
	8月	夏季休業			
二学期	9 ～ 10月	第二学期中間考査	*英語長文演習 Unit 10~14 *FINAL DRAFT Lesson 10~14	・様々な分野の英文を読み解く。 ・テーマに沿って英文を書く。	・英文を読み、情報や考えなどを的確に理解する。 ・テーマのポイントを踏まえ、正しい文法にしたがって英文を書く。
	10 ～ 12月	第二学期期末考査	*英語長文演習 Unit 15~19 *FINAL DRAFT Lesson 15~20	・様々な分野の英文を読み解く。 ・テーマに沿って英文を書く。	・英文を読み、情報や考えなどを的確に理解する。 ・テーマのポイントを踏まえ、正しい文法にしたがって英文を書く。
三学期	12 ～ 3月	学年末考査	*入試問題演習	・個別試験の問題演習をする。	・入試過去問題に取り組む。

英語総合演習	文系必修選択	単位数	2
		教科書	Quest Revised Edition Stage 5

1 講座のねらい

大学入学共通テストおよび一般入試に向けた実践力を養う。

2 授業の内容と進め方

国公立2次試験も含めた、英文解釈、構文理解等を行う。
併せて、大学入学共通テストに向けた読解、リスニング教材を用いて問題演習を行う。

3 思考・判断・表現力を培う手だて

選択式の設問であっても、「なぜそれが正解なのか」を論理的に考える習慣をつけ、思考力、判断力を高める。さらに、記述の問題を通して、表現力の向上にも努める。

4 学習する上での留意点

単に「試験のため」の学習ではなく、文法・語法、読解、表現活動により、今後も活用できる総合的な英語力を身に付けることになることを意識する。

5 予習復習の実施

予習：長文問題演習：①辞書なしで大意を推測、解答する ②辞書を使用し単語・熟語・文法事項等を確認する。

共通テスト教材：授業時に初見で問題を解き、実践力を身に付けていく。

復習：授業での解説を踏まえ、解き直し、確実に理解する。語彙、文法、文構造等を各自で復習する。

6 副教材・参考書

『パワーマックス英語リーディング×8』（Z-KAI）

7 課題・補習について

大学受験対策として長期休業中に講習を実施する。

8 評価の視点・考査について

定期考査、提出物等を評価対象とする。

9 1年後の目標

難しめの入試長文を、辞書を用いずに理解、分析、表現することができる。

授業計画： 英語総合演習（2単位）

期	月	考査	単元	授業内容	着眼点
一学期	4 ～ 5月	第一学期中間考査	*Quest Lesson 1~4	・様々な分野の英文を読み解く。 ・文法事項の確認、演習をする。	・英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する。 ・語法、文構造、文脈を理解し、適切な解答を作成する。
	5 ～ 7月	第一学期期末考査	*Quest Lesson 5~8	・様々な分野の英文を読み解く。 ・文法事項の確認、演習をする。	・英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する。 ・語法、文構造、文脈を理解し、適切な解答を作成する。
	8月	夏季休業			
二学期	9 ～ 10月	第二学期中間考査	*Quest Lesson 9~10 *パワーマックス 1~2	・様々な分野の英文を読み解く。 ・文法事項の確認、演習をする。	・英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する。 ・語法、文構造、文脈を理解し、適切な解答を作成する。
	10 ～ 12月	第二学期期末考査	*パワーマックス 3~6	・様々な分野の英文を読み解く。 ・文法事項の確認、演習をする。 ・大学入学共通テスト対策として、テスト形式で問題演習をする。	・英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解する。 ・語法、文構造、文脈を理解し、適切な解答を作成する。 ・大学入学共通テスト予想問題の形式、出題傾向等に慣れる。
三学期	12 ～ 3月	学年末考査	*パワーマックス 7~8 *共通テスト演習 *入試問題演習	・大学入学共通テスト対策として、テスト形式で問題演習をする。 ・個別試験の問題演習をする。	・大学入学共通テストの形式に慣れる。 ・入試過去問題に取り組む。

令和5年度「総合的な探究の時間」の年間指導計画

(3学年)

1単位時間の時間 (50) 分

学期	月	指導項目	指導内容	評価計画	配当時間
1学期	4	①「課題研究Ⅰ」	①2年次に実施した「地域探究」を深め、新たな問いを立てる。	探究の問いが適切に立てられているか。	12時間
			②「地域課題の解決」をテーマにした小論文に取り組む。	小論文の基本的な書き方を学び、習得できたか。	14時間
			③添削結果を確認し、不足している部分を改善する。		
2学期	9	②課題に対する表現力の育成	④添削結果を踏まえて発表資料を作成する。	発表の資料作成を各自工夫して作成することができたか。	9時間
			⑤クラスで発表する。		
3学期	1				
配当時間数の合計					35時間